

## 第3次防府市生涯学習推進計画

# 令和6年度事業実施状況調査票

基本目標	1 いっでもどこでも学べる環境づくり
施策	(1) 生涯学習意識の醸成
施策の展開	① 生涯学習情報発信の充実
施策の方針	市民の生涯学習意識の醸成や学ぶことに対する意欲の高揚をはかるため、必要とされる生涯学習情報を適切に提供する仕組みの充実やさまざまな啓発・広報活動の充実を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

施策内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		6年度末実施状況	事業費(千円)	評価(6年度)		評価コメント	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
ア 総合的生涯学習情報の収集・提供	1	生涯学習関係機関との連携による学習情報の収集	関係機関の生涯学習情報の収集を行う。文化センター、公民館等での講座など	文化センター、公民館、防府市地域交流センター、青少年科学館他、関係機関の情報収集及びホームページ等への掲載	-	B		文化センター、公民館、防府市地域交流センター、青少年科学館他、関係機関の情報収集及びホームページ等への掲載	-	B		ホームページ等により、各関係機関の講座情報の収集を行うことができた。  関係機関の学習情報を収集する方法の検討が必要である。	B	最新の情報を得るため、定期的に関係機関の情報収集を行うよう努める。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	2	市の学習情報の一元的な管理	市職員が講師となる講座の管理を行う。聞いて得するふるさと講座	聞いて得するふるさと講座 31課64メニュー 申込件数:150(1件の申込で複数の講座の申請あり) 実施件数:153(1件中止)  ※No.29に再掲	22	B		聞いて得するふるさと講座 31課64メニュー 申込件数:175(1件の申込で複数の講座の申請あり) 実施件数:177(5件中止)  ※No.29に再掲	-	B		申込件数は増加傾向にあり、前年度よりも多かった。  市民の多様なニーズに応える魅力的な講座となるよう、メニューの見直しが必要である。	B	引き続き、各課に呼びかけを行い、メニューの追加や内容の充実に努める。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	3	生涯学習のきっかけづくり	生涯学習フェスティバル、セミナー等において、市民自らが体験を行うことやPR活動を通して、生涯学習のきっかけづくりを行う。生涯学習フェスティバル、学ぼうやセミナー等	・生涯学習フェスティバル 開催日:令和6年3月3日(日) 来場者数:延べ2,534人 内容:自主企画講座、講演、ものづくり、文化センター市民教養講座・サークル作品展、学ぼうやコンテスト等 ・学ぼうやセミナー 【夏季】令和5年7月30日(日)開催 18講座、参加者(延べ465人) 【春季】令和6年3月3日(日)開催 21講座、参加者(延べ457人)	618	B		・生涯学習フェスティバル 開催日:令和7年3月2日(日) 来場者数:延べ6,806人 内容:自主企画講座、講演、ものづくり、文化センター市民教養講座・サークル作品展、学ぼうやコンテスト等 ・学ぼうやセミナー 【夏季】令和6年7月28日(日)開催 18講座、参加者(延べ459人) 【春季】令和7年3月2日(日)開催 25講座、参加者(延べ916人)	679	B		生涯学習フェスティバルでは、新庁舎開庁を記念して防府市役所で開催し、実行委員会企画のアトラクションを実施することで、来場者数の増加や親子連れの参加の増加につなげることができた。  開催場所に関わらず、来場者数を維持、増加できるよう効果的な周知や、企画等を検討、実施していくことが必要である。	B	生涯学習フェスティバルでは、チラシやポスターに一定の効果が見られた。より多くの方に生涯学習に触れていただけるように、引き続き効果的なチラシやポスターの作成や、ラジオや広報誌を活用し、講座等の幅広い周知に努める。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	4				
						効率性	3			効率性	3				
	4	市広報やホームページ等のさまざまなメディアを活用した学習情報の提供	各学習情報の市広報や市ホームページ、テレビ、ラジオ等を活用し情報提供を行う。生涯学習課、社会福祉協議会、市民活動支援センターが協力して作成した「まなぼら」や「まなぼうやだより」を活用し情報提供を行う。	各種講座等の市広報、市SNSへの掲載 各団体のホームページ及び生涯学習課ホームページへの掲載 FMわっしょい「防府市からのお知らせ」への出演 まなぼら発行(4回) まなぼうやだより発行(3回)	152	B		各種講座等の市広報、市SNSへの掲載 各団体のホームページ及び生涯学習課ホームページへの掲載 FMわっしょい「防府市からのお知らせ」への出演 まなぼら発行(4回) まなぼうやだより発行(3回)	155	B		計画的に市広報への掲載や情報誌の発行を実施できた。 また、インターネット(SNS)を活用した情報発信も行った。 市広報、情報誌は有効な情報発信だが、市の効果を計ることは難しい。 年齢層に応じた情報発信が必要である。	B	引き続き市広報、情報誌等により情報発信を行い、若年層に有効なインターネット(SNS)等の電子媒体を活用した情報発信に努める。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

基本目標	1 いっでもどこでも学べる環境づくり
施策	(2) 多様な学習機会の提供
施策の展開	① ライフステージに応じた学習機会の充実
施策の方針	生涯の各時期における課題に対応した学習を行うことが求められている。このため、一生を時期の特性などにより、乳幼児期、少年期・青年期、成人期・高齢期に区分し、各時期のニーズに応じた学習機会の提供を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)	評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						課題								
ア 乳 幼 児 期 に お け る 学 習 機 会 の 提 供	5	子育てサークル等の親子で参加できる遊びや交流の機会の提供	乳幼児の親子が交流できる場所として、「子育てサークル」「わいわいHOFUっ子の集い」等を開設する。	各地区子育てサークル:14地区(49回)参加者(延べ494組) わいわいHOFUっ子の集い:参加者 親子93組(こども100名)	1,079	B		各地区子育てサークル:14地区(49回)参加者(延べ465組) わいわいHOFUっ子の集い:参加者 親子92組(こども100名)	1,512	B		B	子ども相談支援課	
						到達度	4			到達度	4			
						事業効果	3			事業効果	3			
						効率性	3			効率性	3			
	6	子育て世代が必要とする出産や育児に関する学習機会の提供	妊婦とパートナーを対象に、助産師・保健師・管理栄養士の講話や妊婦ジャケットの着用・赤ちゃん人形での抱き方の練習等の体験を通じて、出産・子育てについての心構えや知識を学ぶ教室を開催する。 また、栄養士によるミニ離乳食教室やゆっくり子育て学び塾により認定心理士の講話や学ぶロールプレイングの実習を行う。  両親学級、ミニ離乳食教室、理学療法士相談、乳幼児相談、ゆっくり子育て学び塾等	両親学級:(4回)参加者(延べ88組177人) ミニ離乳食教室:12回(月1回)参加者(延べ173組) 理学療法士相談:6回、参加者(延べ27人) 乳幼児相談:35回、参加者(延べ1391人) ゆっくり子育て学び塾:(6回)参加者(延べ48人)	747	B		両親学級:(4回)参加者(延べ88組176人) ミニ離乳食教室:12回(月1回)参加者(延べ163組) 理学療法士相談:6回、参加者(延べ18人) 乳幼児相談:24回、参加者(延べ1195人) ゆっくり子育て学び塾:(6回)参加者(延べ51人)	715	B		B	子ども相談支援課	
						到達度	3			到達度	3			
						事業効果	3			事業効果	3			
						効率性	3			効率性	3			
	7	家庭教育学級等の地域住民や保護者を対象とした子育て講演会の開催	各公民館や文化センターにおいて、子育てや家庭教育に関する講座(家庭教育学級)や、親子や地域でのふれあい活動などを行う。	各公民館家庭教育学級:参加者(延べ1,853人)	5,994	B		各公民館家庭教育学級:参加者(延べ2,049人)	5,975	B		B	生涯学習課	
						到達度	3			到達度	3			
						事業効果	3			事業効果	3			
						効率性	3			効率性	3			
		地域の子育て支援機能の充実を図るため、子育て及び子育て支援に関する講習等を開催する。	地域及び子育て家庭を対象に、子育て及び子育て支援に関する講習等を実施【開設:8箇所】	54,896	B		地域及び子育て家庭を対象に、子育て及び子育て支援に関する講習等を実施【開設:8箇所】	56,490	B		B	子育て推進課		
					到達度	3			到達度	3				
					事業効果	3			事業効果	3				
					効率性	3			効率性	3				

施策内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
イ 青少年期における学習機会の提供	8	学校・地域・企業等との連携・協働による体験・交流活動の推進	子どもが個性豊かに生きる力を育むため、学校と地域や企業等との連携・協働による、ボランティア活動や体験・交流活動に努める。  清掃活動、職場体験等	地域との連携による奉仕活動(清掃活動、地域行事への積極的な参加) 職場体験(小学校一部、中学校、高等学校一部)	-	B		地域との連携による学習や体験活動、地域貢献活動  職場体験(小学校一部、中学校、高等学校一部)	-	A		地域の実情に合わせて、地域行事へ積極的に参加したり、地域の清掃活動を実施したりした。市内企業や高等学校と連携し、職場体験や学校支援が行われた。	B	継続して実施する。	学校教育課
						到達度	3			到達度	4				
						事業効果	3			事業効果	4				
						効率性	3			効率性	3				
	9	放課後子ども教室等の地域における世代間交流活動の機会の提供	公民館活動(家庭学級)や放課後子ども教室等において、地域における世代間の交流により、双方の理解を深める機会の提供を行う。  琴、門松づくり、しめ縄作り、お餅つき、昔あそび、紙芝居、朗読劇、風揚げ	公民館、放課後子ども教室 ・風揚げ、昔の遊び、輪飾り、門松づくり、しめ縄作り等	-	B		公民館、放課後子ども教室 ・風揚げ、昔の遊び、輪飾り、門松づくり、しめ縄作り等	-	B		放課後子ども教室において、地域における世代間交流の機会を提供することができた。また、中学生がボランティアで参加した教室もあり、世代間交流が広がっている。  担い手の高齢化、固定化がある。	B	継続して実施する。。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	10	音楽・演劇などの学校公演による優れた舞台芸術に触れる機会の提供	防府市青少年劇場を開催し、優れた芸術を体験学習する機会を提供する。	・広田智之:オーボエコンサート(5月)華陽中、小野中 ・原田英代:ピアノコンサート(11月)小野小、佐波小 参加者(延べ1,289人)	608	B		・広田智之:オーボエコンサート(5月)小野小、玉祖小 ・原田英代:ピアノコンサート(11月)松崎小、小野中 参加者(延べ1,047人)	611	B		防府市出身の優れた演奏家に依頼することで、優れた芸術に触れる機会を安価で提供することができた。  公演募集に応募のない学校がある。	B	学校の積極的な応募を促す。	文化振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	4			効率性	4				
	11	国際性豊かな人づくりを目的とした姉妹都市への相互派遣事業の充実	姉妹都市との友好交流を通じて、国際感覚を備えた人材を育成するとともに、姉妹都市交流事業を実施する団体を支援する。  アメリカ合衆国モンロー市との高校生相互派遣事業等	新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、モンロー市と協議の上、令和5年度も事業を中止とした。	-			アメリカ合衆国モンロー市との中高校生相互派遣事業実施 ・モンロー市高校生(5人)引受 R6.7.9～R6.7.23 ・防府市中高校生(6人)派遣 R6.7.25～R7.8.9	2,948	B		派遣対象者に中学生を加えることで、成長のより早い段階から国際感覚を身に着けることができた。  中学生派遣初年度ということもあり、中学生の応募数が全体数に比較して少なかった。	B	中学生派遣生の応募を積極的に働きかける。各中学校にも協力を呼び掛ける。	文化振興課
						到達度				到達度	3				
						事業効果				事業効果	3				
						効率性				効率性	3				
	12	いのちの学習事業の充実	小学生、中学生が、自分の命の起源、家族の育児の様子などについて知ること、自分を大切にし他人を思いやる心を持つことができるように助産師、保健師による健康教育を行う。	小学校2校で実施(180人)	-	B		小学校1校で実施(10人)	-	B		学校や他の関係機関等で実施している同様の取組について内容を確認し、内容や実施方法について検討を行った。  学校や他の関係機関等で実施している取組との兼ね合いも考えて実施内容について考えていく必要がある。	B	いのちの学習事業の取組についての周知を行い、学校等からの実施依頼があれば対応できるようにする。	こども相談支援課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	13	思春期子育て講座の開催	中学生の子どもを持つ保護者及び生徒を対象に多様化、深刻化する青少年の問題に対処するため、思春期子育てについて学習する機会を提供する。	思春期子育て講座7～11月にかけて実施 実施中学校(11校)	110	B		思春期子育て講座6～12月にかけて実施 実施中学校(9校)	90	B		概ね計画どおりに事業を実施することができた。また、実施後の生徒や教員の感想からも効果が感じられた。  実施されていない学校がある。	B	継続して実施し、全中学校に周知及び引き続き応募を促す。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	14	ほうふみらい塾の充実	防府で学ぶこと、防府を学ぶこと、防府から学ぶこととおして、児童生徒の“ふるさと防府”を愛する心を育む。	参加者数37名。「ほうふみらい塾」として10回の基本講座を実施した。オプション講座を3回実施した。	639	B		参加者数35名。「ほうふみらい塾」として8回の基本講座を実施した。オプション講座を2回実施した。	639	A		市内企業や文化財、高等学校と連携して目的達成に向けて実施できた。	B	8回の基本講座と2回のオプション講座を実施する。	学校教育課
						到達度	3			到達度	4				
						事業効果	3			事業効果	4				
						効率性	3			効率性	3				

施策内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
ウ 成人期・高 齢期にお ける学 習機 会の提 供	15	市民教養講座等の 勤労者のニーズに 応じた学習機会の 提供	市民教養講座等の就労者が参加しやすい学習環境づくりや職業上必要な知識や技能の習得に対応した学習メニューの提供に努める。	市民教養講座において、就労者が参加しやすいよう、土曜日や夜間にも講座を実施した。	-	B		市民教養講座において、就労者が参加しやすいよう、土曜日や夜間にも講座を実施した。	-	B		計画どおりに講座を実施することができた。	B	継続して実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	16	健康教室等の健康 づくりに関する学習 機会の提供	病気に関する講話や予防のための生活習慣の見直し、運動に関する学習機会を提供する。  スリムあつぷ教室（生活習慣改善教室）、健診結果説明会、特定保健指導、健康教室主に成人期を対象に健康寿命の延伸や心の健康づくりの推進を目指して各種健康教室を開催します。  ヘルスアップ教室、国保健診結果説明会、国保特定保健指導、ゲートキーパー養成講座、健康講演会等	生活習慣改善教室の開催：（食事編3回、運動編4回）参加者（食事編：延32人、運動編：延57人） 特定保健指導の実施：参加者（51人） 健診結果お渡し会：参加者（17人） 健康教室実施人数：（34回）参加者（延べ1050人）	501	B		幸せますケンシンまつり（延2,800人） 生活習慣改善教室・ヘルスアップ教室（4回：延59人） 特定保健指導の実施：参加者（70人） 健診結果説明会：参加者（12人） ゲートキーパー養成講座：参加者（3回：延42人） その他健康教室：（31回：延770人）	926	B		各種教室、学習イベントについて、より多くの市民に参加していただけるよう、周知方法や内容を工夫して開催することができた。特に幸せますケンシンまつりは様々な団体と連携して開催し、多くの市民が参加され、参加市民だけでなく協力団体からもから好評を得た。 健康づくりに関する市民アンケート結果からも読み取れるが、若い世代や働き世代の参加者が少ないことが課題である。	B	より多くの市民に健康づくりに関する学習機会を提供できるよう、今後も周知方法や内容を工夫しながら開催する。特に、課題である若い世代や働き世代の人へも健康づくりに関する学習機会をより多く提供できるよう、関係団体や職域との連携を深めて実施する。	健康増進課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	17	ほうふスポーツフェ スタ等の生涯にわ たりスポーツに親し む機会の提供	誰もが生涯にわたり、それぞれの目的や状況に応じて、気軽にスポーツに親しむことのできる機会の提供を行う。  ほうふスポーツフェスタ、市民体育祭、市内一周駅伝競走大会等	ほうふスポーツフェスタ2023（10月15日）  市内一周駅伝競走大会（1月7日）  各種大会・教室・講習会  ※No.40に再掲	1,348  215  参加費	B		ほうふスポーツフェスタ2024（10月20日）  市内一周駅伝競走大会（1月12日）  各種大会・教室・講習会  ※No.40に再掲	1,779  178  参加費	B		ほうふスポーツフェスタ：前年度よりも参加者が増え、使用施設増やブース内容の充実により、来場者に対して、スポーツに親しむ機会を提供できた。  市内一周駅伝：チーム数、役員数の減少があり人員配置において課題が見られた。またコースの安全性においても、今後検討の余地がある。	C	ほうふスポーツフェスタ：来場者に毎年新鮮な気持ちで楽しんでいただくために、協力団体の増加やブース内容の改良を加えながら、継続実施していく。 市内一周駅伝：左記課題であげた内容について、陸上競技協会や小中学校とも、意見を交わして、安全安心な大会を作り上げていく。	スポーツ振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	18	高齢者教室等の高 齢者の生きがいづ くりにつながる学 習機会の提供	高齢者のいきがいづくりとして、公民館による高齢者教室や、豊かな老後を創造することに寄与するため老人大学校等を開催する。  高齢者教室	高齢者教室：14公民館で実施（1,131講座）参加者（延べ2,172人）	5,994	B		高齢者教室：14公民館で実施（138講座）参加者（延べ2,444人）	5,975	B		各公民館で、概ね計画どおりに事業を実施することができた。  就労している高齢者が多く、講座の運営委員、受講生の確保に苦慮している。	B	継続して実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
		老人大学校	老人大学校	老人大学校：（年10講座）参加者（延べ478人）	200	B		老人大学校：（年10講座）参加者（延べ250人）	244	B		老人大学校の各講座を通して、高齢者に対する学びの場を提供することができた。  受講後、地域参加に繋がり、多くの方に参加してもらえよう講座内容にする必要がある。	B	講座内容を見直し、継続して実施する。	高齢福祉課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

基本目標	1 いっでもどこでも学べる環境づくり
施策	(2) 多様な学習機会の提供
施策の展開	② 現代的課題に対応する学習機会の充実
施策の方針	現代社会において、問題や課題が複雑かつ多様化していることから、その解決に取り組むうえで発生するニーズに応じた学習活動を支援するための学習機会の提供を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

施策内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント 課題		今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	事業効果			到達度	事業効果					
ア 多様なニーズに対応した学習機会の提供	19	防災出前講座等の安全・安心な暮らしにつながる知識や技術を得るための学習機会の提供	市民一人ひとりが安全・安心に暮らせるよう防災・防犯に関する学習機会の提供を行う。  防災出前講座、府市防災士養成講座、自主防災組織リーダー研修  消費生活講座	・防災出前講座(61回) 参加者(延べ2,352人) ※聞いて得るふるさと講座(自主防災・ハザードマップ)を含む。 ・府市防災士養成講座(1回:2日間) 受講者 46人 ・防災リーダー研修(1回) 受講者 142人 ・府市防災セミナー(1回) ・わくわく防災体験ツアー(1回) 来場者数 2,014人 ・女性向け防災セミナー【地域版】(3回) 華城・中間・松崎地域 受講者 合計54人	5,470	B		・防災出前講座(151回) 参加者(延べ4,267人) ※聞いて得るふるさと講座(自主防災・ハザードマップ)を含む。 ・子ども防災士養成講座(3日間) 受講者 合計28人 ・女性向け防災セミナー【地域版】(3回) 新田・向島・勝間地域 受講者 合計54人	1,192	B		土砂災害警戒区域、津波災害警戒区域内の自治会への講座開催や、子ども防災士の育成に取り組むことで、幅広く防災知識の普及を行うことができた。		B	啓発の機会を逃さず、幅広い属性の住民に向けた講座を展開していく。	防災危機管理課
						3				到達度	3					
							3			事業効果	3					
							3			効率性	3					
	20	地域福祉推進セミナー等の社会福祉協議会との連携による地域福祉教育の推進	府市社会福祉協議会との連携により、あらゆる世代が参加できるイベントや研修会を通して、啓発活動を行い、住民参加の推進を行う。  府市障害者福祉啓発セミナー  府市地域福祉推進セミナー	・消費生活講座に代わり、消費生活セミナーを開催(令和5年5月20日(土)ルルサス府多目的ホール、参加者80人) ・出前講座:(3回)参加者(延べ46人)	367	B		・消費生活セミナーを開催(令和6年5月25日(土)ルルサス府多目的ホール、参加者60人) ・出前講座:(6回)参加者(延べ127人)	314	B		消費者被害防止のため、「スマホをきっかけとするトラブル」について消費生活セミナーを開催し、多くの市民に参加いただき、楽しく学んでいた。		B	相談の多いトラブルをセミナーのテーマにすることで、多くの市民が関心、興味を持てる内容にし、より多くの市民の参加を促し、多くの「賢い消費者」の育成をする。	くらし安全課
						3				到達度	3					
							3			事業効果	3					
							3			効率性	3					
	21	国際交流フォーラムや国際交流フェスティバル等、異文化を理解する機会の提供	府市障害者福祉啓発セミナー「あいサポーター研修」令和6年2月8日(木)参加者(44人)  府市障害者福祉啓発セミナー  府市地域福祉推進セミナー	・地域福祉(福祉の輪づくり運動)推進セミナー 講演 ひきこもり支援の正しい知識 8050問題の家族への見守り活動としてのかわわり講師 国立大学法人 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻 SDS支援システム開発講座 教授 NPO法人ふらっとコミュニティ 代表理事 山根 俊 恵 氏 令和6年1月24日(水)参加人員 100名(オンライン参加者4名)	65	B		府市障害者福祉啓発/地域福祉(福祉の輪づくり運動)推進セミナー 講演 題「そらいろプロジェクト～すべては子どもたちの笑顔のために～」講師 そらいろプロジェクト京都 代表 赤松 隆滋 氏 内 容 高齢者や障がい者、小さな子どもたち。理美容院に行きにくい人、また理美容院がそのような人たちを受け入れにくい今の社会や業界を変えていく美容の面からバリアフリー社会を目指す活動 令和6年11月25日(月)参加人員 61名	65	B		地域共生社会を目指し「丸ごと」取り組めるよう、専門機関、生活関連事業所を含め広く周知し、企業がボランティア活動モデル推進事業所からの参加も得た。  地域での課題が、児童、障害、高齢、ひとり親、引きこもり等多岐に及ぶため、引き続き「我がこと」として地域の状況を把握し課題に合ったテーマで、継続的に実施することが必要である。		B	令和6年度の地域の状況を把握し、その課題からテーマを決定しセミナーを開催する。	福祉総務課
						3				到達度	3					
							3			事業効果	3					
							3			効率性	3					
	21	国際交流フォーラムや国際交流フェスティバル等、異文化を理解する機会の提供	府市国際交流団体連絡協議会主催事業として、令和5年10月21日に、国際交流フェスティバルを実施し、飲食やワークショップを通じて、市内外在住の外国人との交流を図ることができた。	府市国際交流団体連絡協議会主催事業として、令和5年10月21日に、国際交流フェスティバルを実施し、飲食やワークショップを通じて、市内外在住の外国人との交流を図ることができた。	326	B		府市国際交流団体連絡協議会主催事業として、令和6年10月12日に、国際交流フェスティバルを実施し、飲食やワークショップを通じて、市内外在住の外国人との交流を図ることができた。	389	B		来場した外国人との交流を図ることができ、同時開催であった防府フリーマーケットとの相乗効果も発揮できた。  フェスティバル参加団体の固定化や団体数の減少が懸念され、参加団体の確保が課題である。		B	団体の参加を促進し、府市国際交流団体連絡協議会が主催する現存の事業を推進する。	文化振興課
						3				到達度	3					
							3			事業効果	3					
							3			効率性	3					



内容 施策の	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
ア 多様なニーズに対応した学習機会の提供	22	スマートフォンやタブレット端末、パソコン講座等のデジタル社会に対応した学習機会の充実	情報化社会に対応しパソコン等を取り入れた学習機会の充実を図る。 防府地域職業訓練センターパソコン講座 文化福祉会館等パソコン講座	防府地域職業訓練センターパソコン講座 〔種目〕 ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット、アクセス、ホームページ、広告・チラシ・POP作成等 ※No.81に再掲	-	B		防府地域職業訓練センターパソコン講座 〔種目〕 ワード、エクセル、エクセル関数、パワーポイント、アクセス、ホームページ、CAD、SNS活用 ※No.81に再掲	-	B		民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入しており、多様化するニーズに対応した講座を開催している。 効果的なPRが求められる。	B	継続して実施し、勤労者、求職者等の職業能力の向上を促進する。	商工振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	4			効率性	3				
			ルルサス文化センター短期講座 〔種目〕 ワード、エクセル、プログラミング、スマートフォン講座等	68		B		ルルサス文化センター短期講座 〔種目〕 ワード、エクセル、プログラミング、スマートフォン講座等	107	B		デジタルデバйд解消講座の充実を図った。	B	継続して実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	23	障害のある人が学ぶ機会の充実	障害のある人が、スポーツの楽しさを体験するとともに、市民の障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加を推進するため、山口県障害者スポーツ大会への参加を支援する。 また、防府市社会福祉協議会に委託し、障害のある人にスポーツ、レクリエーション等への参加機会の提供。生活訓練による日常生活能力等の向上を図る。 県障害者スポーツ大会への参加支援、レクリエーション活動、生活訓練、防府市障害者体育大会	山口県障害者スポーツ大会の参加支援 ・12名参加(陸上、水泳、アーチェリー、卓球、サウンドテーブルテニス、ボッチャ) キランピックの参加支援 ・68名参加(陸上、水泳、フライングディスク) (社協委託事業) レクリエーション活動 ・150名参加(みかん狩り) 生活訓練 ・10名参加(事業所見学等) 防府市障害者体育大会 ・286名参加	1,251	B		山口県障害者スポーツ大会の参加支援 ・11名参加(陸上、水泳、アーチェリー、卓球、サウンドテーブルテニス) キランピックの参加支援 ・35名参加(フライングディスク、ボッチャ) (社協委託事業) レクリエーション活動 ・131名参加(りんご狩り) 生活訓練 ・11名参加(事業所見学等) 防府市障害者体育大会 ・400名参加	1,555	B		山口県障害者スポーツ大会及びキランピックについては、参加申込者の取りまとめ、当日の付き添い等による支援を行った。 社協委託事業については、予定どおり開催し、多くの参加があった。 各行事の参加者はほぼ固定しており、新規参加者が少ない。	B	県障害者スポーツ大会及びキランピックについては、関係者へ各大会等への参加を呼びかけるとともに、参加者への支援を行う。 レクリエーション等については、社会福祉協議会と連携し、効果的な事業実施に努める。	障害福祉課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	24	リカレント教育の推進	生涯を通じて知識と時代の変化に応じたスキルを獲得できるリカレント教育を推進する。 各種講座等	公民館学級・教室、文化センター等で各種講座等を実施	-	B		公民館学級・教室、文化センター等で各種講座等を実施	-	B		スマホ講座等、デジタルデバйд解消講座の充実を図った。	B	継続して実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

内容 施策 の	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
イ 地域を学 ぶ機 会の提 供	25	公民館学級等の公民館におけるふるさとを学ぶ機会の提供	公民館学級(家庭教育学級・女性学級・高齢者教室)において、地域の歴史や伝統芸能、文化等を学び、教養を高めるとともに、後世に伝承する。	公民館学級教室において、地域の歴史や文化を学ぶ機会を提供した。	5,994	B		公民館学級教室において、地域の歴史や文化を学ぶ機会を提供した。	5,975	B		公民館学級で地域の歴史や文化の講座を開催することで、地域住民が地元の歴史等を学ぶ機会を提供することができた	B	継続して実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	26	環境学習講座等の身近な地域の環境に関する学習機会の提供	環境に関する講座メニューや学習資料、啓発資料を必要・要望に応じて柔軟に準備し、幅広い環境学習機会の提供に努める。また、環境教育教材の作成等による環境教育の促進を図る。  環境学習講座の開催 ・佐波川の植物調べ、樹木医による自然観察会、海洋ごみ発生抑制講座等	環境副読本の作成及び各小学校(5年生)への配布。 市内の全市立小中学校において「緑のカーテン」を育成。 新たに、専門機関と連携した地球温暖化防止教育を市内の5小学校で実施。市立保育所3園でも環境教育を実施。 緑花祭やほうふエコまつりでも専門機関と協力した啓発活動を実施。 環境学習講座の開催 ・佐波川流域の昆虫調べ ・佐波川流域の植物調べ ・海洋ごみ発生抑制講座 ・樹木医による自然観察会 ・出前講座(今日から始める省エネ講座)2件	1,900	B		環境副読本を作成し、授業等で活用してもらうため全小学校に配布。 市立小中学校において「緑のカーテン」を育成。 専門機関と連携した地球温暖化防止教育を小学校3校で実施。 小野小学校で気候変動教育モデルづくり事業を実施。 緑花祭やエコまつりで専門機関と協力した啓発活動を実施。 環境学習講座の開催 ・佐波川流域の植物調べ ・海洋ごみ発生抑制講座 ・出前講座(今日から始める省エネ講座)2件  ※樹木医による自然観察会は終了。	2,030	B		気候変動教育モデルづくり事業として、小野小学校で1年を通して気候変動に関する探求学習を行い、より深く温暖化防止教育を実施できた。 また、昨年度に引き続き、将来を担う子どもたちを中心に環境教育を実施した。  カーボンニュートラルの実現のためには、子どもたちへの環境教育に加え、幅広い世代へ啓発を広げる必要がある。	A	専門機関と連携した環境教育では、新たに山口県環境学習指導者バンクを活用し、授業内容の充実を図る。 また、市内事業者を対象とした脱炭素ワークショップの実施を予定している。	環境政策課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	27	放課後子ども教室等における地域学習の機会の充実	学校を支援する活動の一つとして、放課後子ども教室の拡充を図るとともに、カリキュラムの一つとして、地域学習の取入れを行う。	市内15小学校区で放課後子ども教室を実施。 各教室、年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 市内放課後子ども教室への参加児童数(約5,000人)  ※No.106と118に再掲	4,814	B		市内15小学校区で放課後子ども教室を実施。 各教室、年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 市内放課後子ども教室への参加児童数(延べ約7,300人)  ※No.106と118に再掲	5,591	A		各教室の参加児童数、実施回数ともに前年を上回り、児童の居場所づくりが進んだ。また、留守家庭学級との交流も進み、のべ1,300人の児童が放課後子ども教室を利用した。  放課後子ども教室のスタッフの固定化、高年齢化が進んでいる。今までと同様の活動が保障できるか懸念している。	B	引続き情報交換会等により教室間の情報共有や連携に努めるとともに、後継者育成にも視野を広げてもらえるよう依頼する。放課後子ども教室の様子を保護者や地域の方に周知し、地域の方の運営スタッフへの関心を高め、新規スタッフの増加を図る。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	4				
						事業効果	4			事業効果	4				
						効率性	3			効率性	3				
	28	小・中学校における「防府歴史・文化財読本」の活用促進	社会科や総合的な学習の時間において、「防府歴史・文化財読本」を活用して地域の文化財や歴史的建造物について調べる学習を行うなど、小・中学校における「防府歴史・文化財読本」の活用促進を図る。	社会科や総合的な学習の時間において、「防府歴史・文化財読本」を活用して地域の文化財や歴史的建造物について調べる学習を行っている。	-	B		社会科や総合的な学習の時間において、「防府歴史・文化財読本」を活用して地域の文化財や歴史的建造物について調べる学習を行っている。	-	B		防府市の歴史や文化について調査し、まとめる際に活用している	B	「防府歴史・文化財読本」の資料の活用について、引き続き指導する。	学校教育課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	2			効率性	2				
	29	聞いて得するふるさと講座(出前講座)のメニューの充実	市民からの要請に基づき、市職員等を講師として派遣し行政情報等を提供することにより、市民の市政に関する理解を深めるとともに生涯学習意識の啓発を図る。	聞いて得するふるさと講座 31課64メニュー 申込件数:150(1件の申込で複数の講座の申請あり) 実施件数:153(1件中止)  ※No.2の再掲	22	B		聞いて得するふるさと講座 31課63メニュー 申込件数:175(1件の申込で複数の講座の申請あり) 実施件数:177(5件中止)  ※No.2の再掲	-	B		申込件数は増加傾向にあり、前年度よりも多かった。  市民の多様なニーズに応える魅力的な講座となるよう、メニューの見直しが必要である。	B	引き続き、各課に呼びかけを行い、メニューの追加や内容の充実に努める。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				



施策内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						課題				課題					
ウ キャリア教育の 機会の 充実	30	小・中学校における キャリア教育の計画的な取組の推進  地域との連携による 身近な職場体験学習の機会の提供  商工会議所、職場体験学習受入企業等との連携協力体制の構築  地域・学校・企業等の協働によるさまざまな体験活動の推進	児童生徒一人ひとりが自らの生き方について考え、夢や志を育むよう、教育活動全体を通じて、発達段階に応じて系統的・計画的なキャリア教育を推進する。 社会見学・職場体験学習・福祉体験学習等の充実を図るため、商工会議所・職場体験学習受入事業所等との連携協力体制を構築する。 児童生徒1人ひとりの成長と、小・中学校9年間を見通した指導を推進するとともに、保護者や地域の人材を有効に活用した学習活動を推進する。	小学校は、全ての学校で職場見学を実施。 中学校では、9校で職場体験を実施。実施していない学校も職業講話など、地元企業や高等学校と連携して代替となる活動を実施。	-	B		小学校は、全ての学校で職場見学を実施。 中学校では、全ての学校で職場体験や職業講話を実施。地元企業や高等学校と連携して活動を実施。	-	B		市内小・中学校において家庭・地域と連携しながらキャリア教育に取り組んだ。	B	キャリアパスポートの計画的な活用と確実な引継ぎを継続する。 小中キャリア教育部会と連携し、児童生徒の発達の段階に応じた職場体験学習等の実施を推奨する。	学校教育課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	31	市役所での職場体験学習の機会の提供	職場体験学習(インターンシップ)による就業体験を通して学生の職業意識の向上を図るとともに、市政に対する理解を深めることを目的として実施する。 ワークフォーラム(職業講話)を中学校や高校で実施し、市役所の仕事内容や魅力、学生に身につけてほしい考え方などを伝える。	【職場体験学習】 牟礼中学校1年生3名(1日) 国府中学校2年生5名(1日) 防府総合支援学校1年生2名(1時間) 【インターンシップ】 大学・専門・高専 (夏季:8校18人、春季:5校7人) ※県インターンシップ推進協議会と連携して実施 【職業講話】 市役所の仕事内容や魅力、学生に身に付けてほしい考え方などを伝える。 防府高等学校(1時間) 講師:人事課人事研修係	-	B		【職場体験学習】 桑山中学校2年生5名(2日) 国府中学校2年生4名(1日) 【インターンシップ】 大学・専門・高専 (夏季:7校15人、春季:3校5人) ※県インターンシップ推進協議会と連携して実施 【職業講話】 市役所の仕事内容や魅力、学生に身に付けてほしい考え方などを伝える。 ・牟礼中学校(25分)講師:建築課職員 ・国府中学校(40分×2) 講師:人事課職員、こども相談支援課職員	-	B		職場体験に技術職を追加したこと・事務職員だけでなく多職種の職員からも講話をしたことにより、広く市役所の仕事について伝えることができた。	B	職業ガイダンス等に参加するときや学校への訪問時に周知する。 受入部署に制度の趣旨・メリットについて周知し、協力を依頼する。	人事課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
エ 人権学習の 推進	32	人権学習市民セミナーの開催等の市民ぐるみでの積極的な人権学習の推進	市民、人権学習推進市民会議員、人権学習推進委員を対象として、さまざまな人権課題のテーマについて講師を招聘し、市民セミナーや講演会を行う。	市民セミナー(4回):参加者283人 講演会:参加者151人 市民会議総会:参加者164人	824	B		市民セミナー(3回):参加者 232人 ※1回は、台風接近に伴い中止 講演会:参加者 165人 市民会議総会・講演会:参加者 201人	887	A		新たに、広報啓発として市内郵便局へ、ポスター掲示、チラシ配布をすることができた。また、dボタンでの広報を始め、セミナー・講演会等を予定どおり開催できた。	A	様々な人権問題について、バランスよくかつ、市民のニーズも踏まえた講師選定を行い、さらなる周知拡大を図る。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	4				
						事業効果	3			事業効果	4				
						効率性	3			効率性	3				
	33	人権学習推進委員研修会等の開催による人権学習推進体制の充実	地域や団体、職場等で研修会を企画・運営し、人権意識の高揚と啓発活動を担う人権学習推進委員を対象に、情報交換、実践活動をもとにした研修会を行う。	人権学習推進委員研修会(4回):参加者(延べ98人)	332	B		人権学習推進委員研修会(4回):参加者(延べ95人)	346	A		最後の研修会では、プラスの研修内容として、新たな試み「グループ情報交換会」を実施した。	B	研修内容の充実を図り、継続して実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	4				
						事業効果	3			事業効果	4				
						効率性	3			効率性	3				
	34	人権学習指導員の派遣や人権学習教材の貸出等の人権学習への支援	地域や団体、職場等で実施される研修会への人権学習指導員の派遣や人権学習教材の充実・貸出を行う。	人権学習指導員の派遣:(57回) 人権学習教材の貸出:(89本)	91	B		人権学習指導員の派遣:( 87回) 人権学習教材の貸出:( 86本)	88	B		幼児対象や小学校低学年向けのプログラムを継続して実施。また、新たな企業団体でも講座を実施することができた。	B	継続して、地域や企業(事業所)への周知を図り、人権学習はの支援の拡大を図る。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	4				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	35	ジェンダー平等に関する「聞いて得するふるさと講座(出前講座)」等の推進	ジェンダー平等に関して、聞いて得するふるさと講座(出前講座)等の活用を推進する。	「聞いて得するふるさと講座(出前講座)」 男女共同参画社会について、1メニュー 男女共同参画社会を含む人権全般について、4メニュー 講座実施回数:12回(内出前講座5回)	-	B		「聞いて得するふるさと講座(出前講座)」 男女共同参画社会について、1メニュー 男女共同参画社会を含む人権全般について、4メニュー 講座実施回数:2回(内出前講座 2回)	-	B		申込者と講座実施前に、講座内容を確認する機会を設けて、講座を実施することができた。	B	関係機関などへの周知を図り、継続して実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

施策内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						課題									
オ 文化・芸術に 触れる機会 の充実	36	市民文化祭や障害者ふれあい芸術展等、文化・芸術に親しみ、参加・活動できる機会の提供	アスピアートの指定管理者である防府市文化振興財団に企画・運営を委託し、文化事業を行う。  コンサートツアー、文化講演会、美術鑑賞バス、音楽祭等	防府市文化振興財団文化事業 (41事業) ・音楽祭 ・文化講演会 ・美術展示 ・セミナー他	112,346	B		防府市文化振興財団文化事業 (44事業) ・音楽祭 ・文化講演会 ・美術展示 ・セミナー他	117,846	B		防府振興財団に企画・運営を委託することで、「鑑賞」、「育成」、「普及」、「発表・支援」といった文化事業を提供することができた。  多彩な企画・運営の検討が必要である。	B	より多くの市民が参加できるよう企画する。	文化振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
		障害者ふれあい芸術展	防府市障害者ふれあい芸術展 ・令和6年2月3日～4日開催 応募総数 137点  ※No.98に再掲	B		防府市障害者ふれあい芸術展 ・令和6年12月21日～22日開催 応募総数 202点  ※No.98に再掲	B		報道機関等に芸術展の開催を案内し、PRを行った。  参加者や団体が固定化する傾向があり、新規参加者への呼びかけを積極的に行う必要がある。	B	市広報等に開催記事を掲載し、作品の募集及び来場について周知を行う。	障害福祉課			
				到達度	3		到達度	3							
				事業効果	3		事業効果	3							
				効率性	3		効率性	3							
	文化・芸術団体の活動支援と各団体間の連携・交流の促進	文化・芸術に関する全国大会参加及び市内各種大会の開催支援を行う。また、文化芸術の集合体である防府市文化協会の支援を行う。  山口県芸術演奏会開催経費補助金、防府市文化協会運営補助金等	・全国大会等出場支援助成金 ・防府市文化協会運営補助金 ・市民文化祭に対する開催経費補助金	7,895	B		・全国大会等出場支援助成金 ・防府市文化協会運営補助金 ・市民文化祭に対する開催経費補助金	7,700	B		全国大会に出場する団体への助成や防府市文化協会への支援を行うことで、文化・芸術に触れる機会の充実につながった。  恒例ではない事業への支援を行う必要がある。	B	関係団体からの情報を受ける機会を増やす。	文化振興課	
					到達度	3			到達度	3					
					事業効果	3			事業効果	3					
					効率性	3			効率性	3					
山口県青少年劇場の開催等、伝統文化についての学習や継承の推進	山口県青少年劇場や文化庁「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」等を活用し、伝統文化の学習機会を提供する。また、防府市文化協会(防府民族芸能連盟)の活動を支援し伝統文化の継承を推進する。  山口県青少年劇場、文化芸術による子供の育成事業等	・文化芸術による子供の育成総合事業【芸術家の派遣事業】 華城小	-	B		・山口県青少年劇場 佐波小、牟礼中 ・文化芸術による子供の育成総合事業【芸術家の派遣事業】 華浦小、大道小 【学校巡回公演事業】 西浦小、右田小	-	B		伝統文化の学習機会を提供することで、子供の育成事業を推進した。  公演募集に応募のない学校がある。	B	学校の積極的な応募を促す。	文化振興課		
				到達度	3			到達度	3						
				事業効果	3			事業効果	3						
				効率性	3			効率性	3						
企業等との連携・協働による文化・芸術活動の支援	市広報を活用して、「メセナ活動」芸術文化支援として企業・団体・個人から会員を募り、防府市に在住する団体、個人及び防府市出身者による文化・芸術活動を支援する。	6月、11月と2回助成希望団体を募集。4件の申請があり4件とも採択された。	-	B		6月、11月と2回助成希望団体を募集。2件の申請があり2件とも採択された。	-	B		市広報を活用して助成希望団体を募り、申請団体に対し文化・芸術活動を支援した。  事業の周知が必要である。	B	より多くの団体が利用できるよう、広く制度周知を図る。	文化振興課		
				到達度	3			到達度	3						
				事業効果	3			事業効果	3						
				効率性	3			効率性	3						

施策内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
カ 生 涯 ス ポ ー ツ の 推 進	40	ほうふスポーツフェスタ等の生涯にわたるスポーツに親しむ機会の提供(再掲)	誰もが生涯にわたり、それぞれの目的や状況に応じて、気軽にスポーツに親しむことのできる機会の提供を行う。 ほうふスポーツフェスタ、市内一周駅伝競走大会等	ほうふスポーツフェスタ2023(10月15日) 市内一周駅伝競走大会(1月7日) 各種大会・教室・講習会 ※No.1の再掲	1,348  215  参加費	B		ほうふスポーツフェスタ2024(10月20日) 市内一周駅伝競走大会(1月12日) 各種大会・教室・講習会 ※No.17の再掲	1,779  178  参加費	B		ほうふスポーツフェスタ:前年度よりも参加者が増え、使用施設増やブース内容の充実により、来場者に対して、スポーツに親しむ機会を提供できた。  市内一周駅伝:チーム数、役員数の減少があり人員配置において課題が見られた。またコースの安全性においても、今後検討の余地あり。	C	ほうふスポーツフェスタ:来場者に毎年新鮮な気持ちで楽しんでもうために、協力団体の増加やブース内容の改良を加えながら、継続実施していく。 市内一周駅伝:左記課題であげた内容について、陸上競技協会や小中学校とも、意見を交わして、安心安全な大会を作り上げていく。	スポーツ振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	41	トップアスリートを誘致したスポーツイベントの開催	トップアスリートを誘致した大会やイベントの開催  レノファ山口FCの防府市サンクスデーにおける試合観戦の支援	レノファの関係者によるサッカー教室を実施し、およそ40名の参加者があった。  レノファ山口FCの防府市サンクスデーにおいて、観戦支援として、市内の親子を招待した。(ペアチケット50組100名)	201	B		宝くじスポーツフェア「ドリーム・ベースボール」を開催し、元プロ野球選手20名を誘致  (マラソン選手)川内優輝トークショーの開催  レノファ山口FCの防府市ホームタウンデーにおける観戦支援として、防府市在住の学生に対して無料招待等実施。 試合開始前にレノファ山口FCのコーチによる親子サッカー教室を開催。	1,700  350  350	B		多くの観客動員があり、スポーツ推進に貢献。  単発イベントがメインとなるため、継続実施できるイベントを模索する必要がある。	A	特定の種目以外にも、トップアスリートを誘致できるイベントが必要。	スポーツ振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	42	高齢者や障害のある人がスポーツをする機会の拡大	スポーツ協会や指定管理者による高齢者を取り組みやすい定期教室等の開催  いきいきシルバーふれあいスポーツ大会  障害のある人が取り組みやすいスポーツ体験会等の開催  障害体育大会、風船バレーボール大会	いきいきシルバーふれあいスポーツ大会について、雨天により中止	-			いきいきシルバーふれあいスポーツ大会は、熱中症の危険があるため中止	-			開催場所等の見直しが必要である。(いきいきシルバースポーツ大会)	B	関係機関と連携し、継続して実施する。	高齢福祉課
						到達度				到達度					
						事業効果				事業効果					
						効率性				効率性					
		防府読売マラソン大会等でのボランティア体験機会の提供等、スポーツボランティアに関する情報の提供	防府読売マラソン大会等でのボランティア体験機会の提供等、スポーツボランティアに関する情報の提供  学校や地域、企業との連携による人材確保	地域や企業によるボランティアを募集し、人材を確保した。  No.83に再掲	539	B		・防府市障害者体育大会(社協委託事業) 市内在住の障害者やその家族など286人が参加した。  ・風船バレーボール大会 市内の障害者団体、障害福祉サービス事業所から5団体7チーム56人が出場した。	559	B		いずれの事業も、市内在住の障害のある人が、運動を通してともに助け合いながら交流を深めることができた。  各行事の参加者はほぼ固定しており、新規参加者が少ない。	B	関係者に大会への参加を呼びかけるとともに、社会福祉協議会等の関係団体と連携し、効果的な事業実施に努める。	障害福祉課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	43	防府読売マラソン大会等でのボランティア体験機会の提供等、スポーツボランティアに関する情報の提供	防府読売マラソン大会等でのボランティア体験機会の提供等、スポーツボランティアに関する情報の提供  学校や地域、企業との連携による人材確保	地域や企業によるボランティアを募集し、人材を確保した。  No.83に再掲	-	B		地域や企業によるボランティアを募集し、人材を確保した。 ほうふスポーツフェスタでは学生ボランティアを募集して、ブース補助を依頼した。  ※No.83.91に再掲	-	B		企業・学生・一般と様々な人と共に大会・イベントを創り上げ、盛り上げることができた。  年々事業規模が大きくなる中で、今後は更に人員が必要になってくる。	A	大会規模に合わせた人員確保を継続して実施していく。	スポーツ振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	44	公民館等、各地域におけるスポーツ活動の支援	公民館等、各地域におけるスポーツ活動の支援  貸館業務等	公民館等、各地域におけるスポーツ活動の支援  貸館業務等	-	B		公民館等、各地域におけるスポーツ活動の支援  貸館業務等	-	B		市民の要望に対して活動場所の提供を適切に行っている。	B	継続して実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

基本目標	1 いっでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	① 公民館の整備・充実
施策の方針	地域住民の学習ニーズに応えるため、社会教育主事等の配置により、地域課題に対応した学習機会の提供や地域情報の収集、学習情報の提供に努めると共に地域活動の拠点施設としての機能の充実に努める。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内 容 の	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)	6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)	評価コメント		今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課		
										課題						
ア 公 民 館 の 整 備 ・ 充 実	45	公民館だより等による学習情報発信の充実	社会教育指導員等による学習機会の提供や地域情報の収集、学習情報の提供に努める。  公民館だよりの作成、ホームページによる情報発信等	公民館だよりの作成、ホームページの更新による情報発信を行った。	-	B	公民館だよりの作成、ホームページの更新による情報発信を行った。	-	B	公民館だよりの作成、ホームページの更新による情報発信		B	ホームページの内容充実に努める。	生涯学習課		
						到達度			3	到達度	3					
						事業効果			3	事業効果	3					
						効率性			3	効率性	3					
	46	牟礼公民館の建替え等、公民館の計画的な整備・改修と適正な維持管理	公民館の老朽化に伴い、計画的な整備・改修を行い、適正な維持管理に努める。	各公民館の修繕を随時実施 牟礼公民館の建替事業（設計業務） 照明器具のLED化（富海、右田、野島）	75,267	B	各公民館の修繕を随時実施 牟礼公民館の建替事業 照明器具のLED化（佐波、勝間、松崎）	188,552	B	公民館の建替えは概ね計画通りに事業を実施することができた。		B	小規模修繕や緊急性の高い箇所の改修を行い、施設の維持管理に努める。また、牟礼公民館の令和7年度中の供用開始を目指すと同時に、特に建替えを急ぐ中関・大道・華浦公民館の整備を計画的に進める。	生涯学習課		
						到達度			3	到達度	3					
						事業効果			3	事業効果	3					
						効率性			3	効率性	3					
	47	講座やサークル活動等、自治会や関係団体等との連携・協働による多様な学習の場の提供	自治会や関係団体等の活動を支援し、公民館における地区住民の多様な学習の場づくりに努める。  各種学級、教養講座等	各種学級 教養講座 サークル活動他 青少年協会の活動の支援 子ども会活動の支援	-	B	各種学級 教養講座 サークル活動他 青少年協会の活動の支援 子ども会活動の支援	-	B	概ね計画通りに実施することができた。		B	継続実施する。	生涯学習課		
						到達度			3	到達度	3					
						事業効果			3	事業効果	3					
						効率性			3	効率性	3					
	48	公民館職員のICT（情報通信技術）に関するスキルアップの機会の充実	公民館職員のICT（情報通信技術）に関する研修等に努める。	未実施	-		未実施	-				B	公民館職員のICTに関するスキルアップの機会の確保について、現状を踏まえて検討する。	生涯学習課		
						到達度									到達度	
						事業効果									事業効果	
						効率性									効率性	
	49	ICT（情報通信技術）の活用による行政相談や地域情報の発信、地域活動の支援	タブレット端末で公民館と市役所窓口をオンライン接続することにより、地域の困りごとの相談をはじめとする行政相談や補助、助成制度の申込、地域情報の発信、地域活動の支援に努める。	市内全15公民館にタブレット端末を設置し、市役所担当課と年間21件のオンライン相談に対応した。	-	B	市内全15公民館にタブレット端末を設置し、市役所担当課と年間21件のオンライン相談に対応した。	-	C	前年度と比べ、利用件数が減少した。オンライン相談の利用者満足度は概ね良かった。		B	オンライン相談の件数の増加を図るため、改めて周知を図る。 事業は継続して実施する。	地域振興課		
						到達度			2	到達度	2					
						事業効果			3	事業効果	2					
						効率性			3	効率性	3					
50	高齢者等を対象にしたスマートフォン・タブレット端末講座の開催	高齢者等を対象にしたスマートフォン・タブレット端末講座を開催する。	ルルサス文化センターで、スマートフォン講座を実施	-	B	ルルサス文化センターでスマートフォン講座を実施した。	-	B	参加者から好評をいただいている。		B	継続して実施する。	生涯学習課			
					到達度			3	到達度	3						
					事業効果			3	事業効果	3						
					効率性			3	効率性	3						
	市内全公民館15館、ルルサス防府、Y-BASE防府サテライトで全51回高齢者向けスマホ教室を開催			3,299	A	①高齢者向けスマホ教室 市内公民館（野島漁村センターを除く）14館、ルルサス文化センターで全48回開催 ②自治会向けスマホ教室 4自治会連合会を対象に市内公民館3館、自治会館1館で計7回開催	2,969	B	参加者の学習意欲が高く、満足度や講師の説明の理解度も全体的に高かったが、参加者の習熟度にはばらつきを感じた。		A	参加者の習熟度にはばらつきがあるため、習熟度別教室を開催するほか、各公民館等でスマホ相談会を別途開催する。 また、自治会向けスマホ教室から一歩進んだ内容として、自治会向けデジタル活用支援講座を各公民館で実施する。	デジタル推進課			
					到達度			4	到達度	3						
					事業効果			4	事業効果	3						
					効率性			4	効率性	3						
51	ルルサス防府での市民教養講座等の新設及び拡充	文化福祉会館の一部機能をルルサス防府へ移転し、市民教養講座などの新設や内容の充実による新たな魅力の創造に努める。	ルルサス文化センターにおいて、講座を増設 ・文化センター短期講座 ・市民教養講座	-	B	ルルサス文化センターにおいて、講座を実施 ・文化センター短期講座 ・市民教養講座	-	B	市民の多様なニーズに対応するため、歴史、健康、デジタル、手芸等様々な内容の講座を実施した。		B	引き続き市民のニーズに応じた講座の開催に努める。	生涯学習課			
					到達度			3	到達度	3						
					事業効果			3	事業効果	3						
					効率性			3	効率性	3						



基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	② 図書館の充実
施策の方針	本市の特色を生かした資料の収集をはじめ、利用者ニーズに対応した幅広い資料の充実・整備を図るとともに利用者サービスの質的向上を図る。市民との協働を推進し、他の図書館や教育文化施設・機関等との相互協力・連携を推進する。積極的な情報発信を図るとともに子どもの読書活動を推進する。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

施策内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
ア 図書館機能の充実	52	図書・視聴覚資料や雑誌・新聞等、図書館資料の質・量両面の充実	図書・視聴覚資料や雑誌・新聞の充実を図る。防府市関連の事項・人物等に関する資料、行政関係資料などの郷土(地域)資料の充実に努めるとともに、電子書籍の普及に伴い変化する資料提供サービスへの対応を図る。	図書館資料整備計画表による資料の充実 新刊図書9,761冊、雑誌303誌、新聞19紙 購入 年間貸出者数(延べ135,478人)、貸出冊数(510,519冊)  防府市電子図書館の蔵書冊数2,053冊(うち郷土資料241冊)	-	B		図書館資料整備計画表による資料の充実 新刊図書10,358冊、雑誌303誌、新聞17紙 購入 年間貸出者数(延べ135,129人)、貸出冊数(485,605冊)  防府市電子図書館の蔵書冊数2,881冊(うち郷土資料287冊)	-	B		令和5年度から、音訳ボランティアグループ「翠の会」が障害者向けに作成した郷土作家4名の著作の音訳カセットテープを、順次デジタルデータに変換し、電子図書館用に編集したものを音声資料として登録している。今年度は、那須正幹の作品4点を貸出しできるようにした。 令和5年末頃から電子図書館の小学生の利用が伸びているため、引き続き児童書の充実を図った。  閉架書庫の空き容量の不足が懸念される。 今年度はLED照明工事に伴う臨時休館中に書庫の整理等を行い、若干の場所の確保ができたが、根本的な解決には至らない。	B	郷土資料の収集を推進する。  電子図書館の資料の充実を図る。  音訳カセットテープのデジタルデータへの変換と編集、電子図書館への登録を引き続き行う。  電子図書館の利用普及の方策を講ずる。特に、市内小中学校への広報に重点を置く。  資料の保存、保管場所について検討する。	教育総務課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	4			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	53	レファレンス・サービス等の利用者サービスの充実	レファレンス・サービスの充実に努め、資料提供サービス・情報提供サービスの質的向上を図るとともに、Webサービスの充実に努める。 移動図書館車でのサービス向上に努めるとともに、地域文庫・貸出文庫の利用促進を図る。 障害者や高齢者へ配慮したサービスの推進に努める。	移動図書館車 6コース・37ステーションを2週間に1回運行。 また、「大道まつり」「玉祖小学校」に出張した。	-	B		移動図書館車 6コース・37ステーションを2週間に1回運行。 また、「玉祖小学校」に出張した。	-	B		事故やトラブルが無いよう、車両の整備や安全確認に努めた。  車両の整備を順次行う。 中型免許を所有し、かつ、運転スキル、図書館業務の処理能力、接客スキルを持つドライバーの確保。 ステーションの場所や運行スケジュールの検証と見直しを随時行う。	B	利用が減少傾向にある小中学校へ、利用の働きかけをする。  利用状況や利用者の声を踏まえてステーションの見直しを行う。	教育総務課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	54	防府市図書館協議会の設置等、図書館事業への市民参画の促進と活用	行事運営などで市民との協働を推進するとともに、防府市図書館協議会の設置により、図書館事業へ広く市民の声が反映されるよう努める。定期的開催する行事・講習会等を通じて、ボランティアの養成・育成を図る。	図書館ボランティア養成講座の開催(2/1・15・22・26 参加者 延べ40人)  防府図書館ボランティア連絡会議の開催(1/25 参加者14人)	-	B		図書館ボランティア養成講座の開催(8/22 参加者13人、11/14 参加者11人) ※臨時休館に伴い年2回の実施とした。  防府図書館ボランティア連絡会議は、臨時休館に伴い実施なし。	-	B		図書館ボランティア養成講座を夏休みに実施したことにより、高校生・中学生の参加があった。  臨時休館に伴い実施できなかった講座・会議があった。 図書館ボランティアの養成と新規入会者の獲得。	B	「図書館ボランティア養成講座」内容の見直しをする。  図書館ボランティアとの連携を密にする。	教育総務課
						到達度	3			到達度	2				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	55	学校図書館等の教育文化施設との連携の促進	資料や情報を的確に提供するため、学校図書館ほかの図書館や施設・機関等との相互協力の推進を図る。	学校支援図書 年間貸出件数(延べ733件)、貸出冊数(4,213冊)  選書会の実施	-	B		学校支援図書 年間貸出件数(延べ776件)、貸出冊数(4,537冊)  選書会の実施	-	B		貸出件数、冊数ともに増加した。  引き続き、学校支援図書の質・量の充実、利用方法の周知と利用促進のPRが必要。	B	学校支援図書の追加資料リストの作成及び配布、利用方法の周知、利用促進のためのPR活動を行う。	教育総務課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

内容の 施策の	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
ア 図書館機能の 充実	56	企画展示や集会・文化活動及びホームページ等による広報活動の推進	企画展示や集会・文化行事、図書館資料を活用する生涯学習グループの奨励・育成等の事業を拡充し、図書館の多角的な利用促進を図るとともに、ホームページの内容充実、各種報道メディア等の活用を通じ、積極的な情報発信に努める。長年郷土の歴史史料を翻刻してきた「防府史料」シリーズの刊行を継続するとともに、ホームページに掲載し、情報発信の充実を図る。	ホームページを随時更新した。 Instagramで情報を発信した。 図書館施設・設備・資料の利用等支援（登録サークル数30団体） サークルの研修会等で図書館職員によるブックトーク等を行った。 【文化行事】 ・上映会「月いちキネマ」を毎月1回実施した。休館中には、映画に関連する図書を紹介するブックトークも行った。8月は子ども向け、12月はバリアフリー上映（全12回 参加者 延べ 118人） ・「大人のくらし塾」を開催した。前期「電子図書館体験会」（9/29、9/30 参加者6人）、後期「はじめてでも楽しい！心が伝わる絵手紙講座」（1/26、1/27 参加者21人） ・「利用者懇談会」を実施し、図書館の運営状況報告をするとともに、より身近で利用しやすい図書館になるよう利用者の意見や提言を聞く機会を設けた。（11/30 参加者8人） ・県央連携都市圏域図書館利活用推進事業でスタンブラリー（10/28～12/28）を実施し、関連事業として図書館コンサート「詩とともに音楽を愉しむ」を開催した。（11/26 参加者88人）	-	B		ホームページを随時更新した。 Instagramで情報を発信した。 図書館施設・設備・資料の利用等支援（登録サークル数30団体） サークルの研修会等で図書館職員によるブックトーク等を行った。 【文化行事】 ・上映会「月いちキネマ」を毎月1回実施した。休館中には、映画に関連する図書を紹介するブックトークも行った。8月は子ども向け、12月はバリアフリー上映（全9回 参加者 延べ 106人） ・「大人のくらし塾」を開催した。前期「聞いて得する健康づくり講座」（9/5 参加者19人）、後期「自然を感じる園芸講座」（12/1、12/5 参加者22人） ・「利用者懇談会」を実施し、図書館の運営状況報告をするとともに、より身近で利用しやすい図書館になるよう利用者の意見や提言を聞く機会を設けた。（11/28 参加者7人） ・県央連携都市圏域図書館利活用推進事業でスタンブラリー（10/19～12/20）を実施し、関連事業として図書館コンサート「チェロで聴く物語が奏でる音楽」を開催した。（11/4 参加者155人）	-	B		Instagramでお知らせや、図書館または本に親しみを持てるような情報を随時発信した。 職員によるブックトークは、それぞれが研鑽を積み、テーマに則したわかりやすく興味を引く本の紹介ができた。 多様な文化行事を実施し、いずれも概ね好評だった。 県央連携都市圏域図書館利活用促進プロジェクトとして開催した図書館コンサート「チェロで聴く物語が奏でる音楽」は、話題の小説に登場する楽曲や作曲家の曲を、本の紹介とともにチェロで演奏をするという図書館ならではの演奏会となり、大変好評であった。  Instagramのフォロワーを増やすために、更に魅力ある情報発信が必要。  各種事業の継続。	B	ホームページの更新、Instagramでの情報発信を適時行う。  引き続き、サークル活動の支援に努める。  出張サービスの広報と積極的な受け入れに努める。	教育総務課
	57	「第3次防府市子ども読書活動推進計画」に基づく、子ども読書活動の推進	市の関係各課、小・中学校及び各関係機関との連携を図り、子どもの読書活動に係る各種事業を展開する。	【児童サービスの充実】 ・防府市子ども読書フェスティバルで、よしながこうたく氏による読み聞かせとライブイベント、サイン会を実施。おはなし会やサークル展示も行った。 ・チャレンジ！調べる学習の実施（7/2、7/23 参加者12人） ・図書館を使った調べる学習コンクールの開催（小学生32作品、中学生4作品） ・読書感想文教室の開催（7/29・30 参加者19人） ・子ども図書館員の実施（7/31、8/7 参加者18人） ・マナーアップキャンペーンの実施（7/5～8/31 達成98人、参加者764人） ・ビブリオバトルの開催 1回目：小学生から大人まで（11/5 参加者18人） 2回目：小学生から大人まで（3/10 参加者24人） ・毎月第3日曜日（家庭の日）にさんさんおはなし会を開催（全11回 参加者 平均大人10人・子ども8人） ・クリスマスおはなし会の開催（12/17 参加者25人） ・「読書感想文のヒント」（公財）防府市文化振興財団が管理運営するソラールとの連携事業として、両館に、科学分野の課題図書と、学芸員と司書それぞれの視点からの感想文の着眼点等をパネルにして展示。（7/5～9/4） ・防府図書館サークルの会員募集チラシの作成・配布	-	B		【児童サービスの充実】 ・防府市子ども読書フェスティバルで、山本孝氏によるワークショップ、サイン会を実施。おはなし会やサークル展示、工作も行った。 ・チャレンジ！調べる学習の実施（7/14に3回 参加者延べ11人） ・図書館を使った調べる学習コンクールの開催（小学生47作品、中学生18作品） ・読書感想文教室の開催（7/27・28 参加者19人） ・子ども図書館員の実施（7/29、8/5 参加者18人） ・マナーアップキャンペーンの実施（7/3～9/2 達成139人、参加者764人） ・ビブリオバトルの開催 1回目：小学生から大人まで（11/10 参加者26人） 2回目：臨時休館に伴い実施なし。 ・毎月第3日曜日（家庭の日）にさんさんおはなし会を開催（全8回 参加者 平均大人7人・子ども10人） ・クリスマスおはなし会の開催（12/15 参加者24人） ・「読書感想文のヒント」（公財）防府市文化振興財団が管理運営するソラールとの連携事業として、両館に、科学分野の課題図書と、学芸員と司書それぞれの視点からの感想文の着眼点等をパネルにして展示。（7/3～9/2） ・防府図書館サークルの会員募集チラシの作成・配布	-	B		児童サービスは、参加型のイベントを多く企画し、年々内容を充実させている。  今年度の防府市子ども読書フェスティバルでは、山本孝さんの絵本の読み聞かせとおはけ作りのワークショップを行い、子どもたちの豊かな想像力で、それぞれユニークな作品を完成させ、大変充実した内容だった。  各種事業の継続。	B	子ども読書フェスティバルでは、さいとうしのぶ氏によるワークショップなどを実施する。	教育総務課



基本目標	1 いっでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	③ 博物館等の充実
施策の方針	防府市の科学教育普及活動の拠点施設として、防府市青少年科学館(ソラール)の利用促進のため、展示物等の施設設備の充実を図り、科学教室の開催、小・中学校への理科教育支援、企画展の開催などを行い、創造性豊かな青少年の育成と市民の科学技術に関する知識の普及及び啓発を図る。 防府市文化財郷土資料館は、講座や体験学習の充実、文化財情報の発信に努める。また、文化財の保護・保存、継承、有効活用を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価
※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

施策内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)	6年度末実施状況	事業費(千円)	評価(6年度)	評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
青少年科学館・文化財郷土資料館の充実	58	幅広い分野での充実した科学教室の開催	防府市の科学教育普及活動の拠点施設として、科学教室の開催、小・中学校への理科教育支援を行い、科学技術に関する知識の普及及び啓発を図る。 また、利用促進のため、施設備品の更新充実に努める。  「工作教室」「科学教室」「サイエンスアカデミー」等	天体観察教室等の科学教室を毎回テーマを変える等、さまざまな分野の教室を実施 ・年間利用者数(延べ48,201人) ・ソラール出前講座(55回)	-	B	電子工作教室等の科学教室を毎回テーマを変える等、さまざまな分野の教室を実施 ・年間利用者数(延べ87,290人) ・ソラール出前講座(45回)	-	B	科学教室やスポーツ展・連携イベント、サイエンスショー、出前講座等を実施し、来館者数は増加した。  ニーズに合わせた出前講座を開催するため、指導員の育成及びスキルアップが必要である。	B	必要な知識・技術を持った指導員の育成及びスキルアップの支援による事業の充実を図る。	生涯学習課
						到達度	3						
						事業効果	3						
						効率性	3						
	59	魅力ある企画展の開催	防府市青少年科学館の利用を促進するため、企画展(特別事業等)を開催する。	青少年科学館 ・特別事業(4回)	-	B	特別事業(4回)	-	A	特別展や企画展を開催した。ポケモン化石博物館は大好評であり、特別展においては、開館以来の最多来館者数を記録した。  特別展や企画展の種類によって、来館者数に差がある。	B	特別展や企画展の内容をより魅力のあるものにする。	生涯学習課
						到達度	3						
						事業効果	3						
						効率性	3						
	60	ホームページ等を活用した文化財情報の発信	常設展・企画展・巡回展を開催する。開催にあたっては、市広報やホームページ、ポスター、リーフレット等により広報を行う。	市広報やホームページに掲載するとともに、市内の小学校へポスターやリーフレット等で広報し、スポーツ展を開催した。  ・4/1～7/9 ソラール連携スポーツ展『宴のごちそうとギョギョ魚!クイズ』開催(575人) ・7/13～9/3 ソラール出張展示『ここにいせきがあったんだ!!～2000年前の山のくらし～』開催 ・7/21～9/3 県立博物館連携スポーツ展『周防国府の筆づかい、息づかい』開催(329人) ・9/16～10/22 スポーツ展『鳥瞰図の世界～吉田初三郎が書いた防府～』開催(138人) ・10/28～1/14 ソラール連携スポーツ展『昔の「はかる」』開催(251人) ・2/1～4/21 スポーツ展『周防国府と清少納言』開催(3月末まで283人)	536	B	市広報やホームページに掲載するとともに、市内の小学校へポスターやリーフレット等で広報し、スポーツ展を開催した。  スポーツ展「周防国府と清少納言」2/1～7/7 ソラール企画展「カガクノミカタ展」連携展示「ドキノミカタ」4/2～7/7 スポーツ展「～夏休みめかし探検隊～平安時代～タイムスリップ!」4/20～9/16 スポーツ展「平安時代の精神世界」10/1～11/17 「発掘された山口 山口県埋蔵文化財センター巡回展」11/30(土)～12/28(日) スポーツ展「下右田遺跡発掘調査展」11/30(土)～3/30(日)  令和6年度文化財郷土資料館展示観覧者数(1,499人)	454	B	スポーツ展を約3か月ごとに開催(計4回)し、集客に努めた。  事前の情報発信が遅れぎみであった。計画的な、情報発信により、集客力を高めることができると考えられる。	B	引き続きソラールと連携していくとともに、情報発信の時期と手法を検討していく。	文化振興課
						到達度	3						
						事業効果	4						
						効率性	3						
	61	文化財を活用した講座、体験学習の充実	文化財郷土資料館での歴史や考古学、文化財に関する講座を開催する。 市民発掘体験等	・8/5 夏休み親子イベント「火おこし体験」(8組24人) ・12/20 下右田遺跡発掘体験(右田小学校6年生3クラス) ・令和5年度 インターンシップ受入(4回) ・令和5年度 校外学習受入(4回) ・令和5年度 出前講座等の開催(14回)	-	B	8/7「染物体験」(ソラール) 8/10夏休み親子イベント「勾玉づくり体験」  令和6年度 インターンシップ受入(3回) 令和6年度 校外学習受入(5回) 令和6年度 出前講座等の開催(6回)	-	B	総合学習の時間を使った校外学習として、文化財郷土資料館への訪問が定着してきた。 昨年に引き続き夏休みのイベントを開催することができた。  体験型の講座やイベントの開催要望が多いが対応できていない。	B	引き続き学校との連携を深め、体験的なイベント開催に努める。	文化振興課
						到達度	3						
						事業効果	3						
						効率性	3						

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	④ 文化施設の充実
施策の方針	地域交流センターの施設整備の充実と活用の促進を図る。 また、英雲荘の保存・適切な管理運営し、有効活用を図り、山頭火ふるさと館は、俳人種田山頭火を顕彰し、郷土の誇りとして継承するため整備を行う。 防府市公会堂・防府市文化福祉会館は、市民が文化活動や学習活動の拠点施設として、長年市民に親しまれている重要な施設だが、老朽化が進んでいるため施設の今後について、建物の建て替えを含めた将来構想を市全体のビジョンの中で検討する。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

施策内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		6年度末実施状況	事業費(千円)	評価(6年度)		評価コメント	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
ア 文化施設の充実	62	公会堂、地域交流センター(アスパラート)の整備充実と活用の促進	市の文化・芸術を推進する施設として、芸術鑑賞や発表機会の提供の場として、利用促進を図るとともに、施設の適正な維持管理を行う。	地域交流センター利用者数(75,796人) 公会堂利用者数(46,087人)	155,413	B		地域交流センター利用者数(82,616人) 公会堂利用者数(40,017人)	154,517	B		防府市文化振興財団に委託することで、施設の設置目的に沿った特徴を活かした管理ができた。  耐用年数経過による設備及び備品の更新が必要である。	B	計画的な施設整備に努める。	文化振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	63	萩往還三田尻御茶屋旧構内(英雲荘)の有効活用	英雲荘の文化・観光施設としての魅力を向上させるため、適切な管理運営をする。夜間特別公開等	昨年に引き続いて企画した「三度の月見イベント」のうち、2回(9/29～10/1、10/27～10/29)を英雲荘で開催(11/23～11/24は毛利邸)した。昼、夜ならではの企画を行うとともに夜間一般公開を実施(英雲荘2回の来館者数、計665人)。またキャッシュレス決済を導入し、利便性の向上に努めた。樹木剪定等を積極的に行い、景観の保全に努めるとともに、花月楼の畳の修復など、必要な維持管理を行った。	9,792	B		昨年に引き続き9/14～17で観月会を開催し、昼、夜ならではの企画を行うとともに夜間一般公開を実施した。  樹木剪定等を積極的に行い、景観の保全に努めるとともに、花月楼の畳の修復など、必要な維持管理を行った。  令和6年度英雲荘入館者数(3,676人)	10,223	B		施設整備について、庭園の池の水の浄化や樹木の維持管理に力を入れ、景観が向上した。  イベントやインバウンド等に対応した施設整備が必要である。	B	観光振興課と連携し、イベント等を見越した施設整備に努める。	文化振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	64	企画展の開催等、山頭火ふるさと館の活用の促進	ふるさとの自然や歴史を背景とした山頭火の世界にふれ親しむ機会や場として、山頭火ふるさと館の活用を促進する。	山頭火ふるさと館入館者数(26,708人)	29,600	B		山頭火ふるさと館入館者数(24,607人)	29,600	B		山頭火ふるさと館を活用することで、山頭火の世界にふれ親しむ機会を提供できた。  入館者増加への取り組みが必要である。	B	入館者増加につながる企画展の開催や関係団体との連携に取り組む。	文化振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	⑤ 生涯スポーツ施設の充実
施策の方針	スポーツセンター体育館(ソルトアリーナ防府)を中心として、誰もがスポーツを安全で気軽に行える環境整備を行うほか、スポーツイベントの開催や健康づくりメニューの提供など、スポーツを通じた交流の拡大や健康増進を推進する。また、地域でのスポーツ振興や世代間交流、コミュニティ活動の場として、引き続き小・中学校体育施設等の地域開放を進め、身近な生涯学習の場の提供を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

施策内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
ア 生涯 スポ ーツ 施設 の 充 実	65	スポーツニーズに対応したイベント等の開催	ソルトアリーナ防府を中心とするスポーツ施設の適正な管理運営に努め活用の促進を図るとともに、多様化するスポーツニーズに対応したスポーツイベントや健康づくりメニュー等の提供を行い、スポーツに親しむ機会の充実に努める。 防府読売マラソン大会等	防府読売マラソン大会 市スポーツ協会や指定管理者等による各種教室、講習会、大会、スポーツイベント、及び有名選手等による教室(陸上競技等) 市スポーツ協会による合宿誘致(陸上長距離)	35,500	B		防府読売マラソン大会 市スポーツ協会や指定管理者等による各種教室、講習会、大会、スポーツイベント 市スポーツ協会による合宿誘致(陸上長距離)	43,500	B		関係団体との協力により、いずれのイベントも盛会に開催できた。  市民のニーズを再確認して、イベントを検討・実施していく必要がある。	B	継続実施と新規事業の検討	スポーツ振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	66	小・中学校体育施設等の地域開放の推進	スポーツ振興や地域のコミュニティ、世代間の交流の場を提供するため、小・中学校の施設を開放するとともに、幼稚園や保育園の園内開放を推進する。 体育施設の開放、園庭開放(保育園)等	小学校16校、中学校1校で体育施設の開放事業を実施	890	B		小学校16校、中学校1校で体育施設の開放事業を実施	890	B		防府市における社会体育及び社会教育の普及、振興のため、学校教育に支障のない範囲で、学校施設を市民の利用に供することができた。 学校施設開放事業を実施するにあたり、事務局として事業の運営を担う学校園の事務的負担が年々増大している。	B	今後もスポーツの振興や交流の場を提供するため、学校施設開放事業を推進していく。	教育総務課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
				園庭開放 (保育園・幼保連携型認定こども園)22施設	-	B		園庭開放 (保育園・幼保連携型認定こども園)22施設	-	B		地域の未就園児と保護者同士の交流が図れた。	B	園庭開放は、子育てに関する「相談」「情報提供」「交流」の場であり、継続して実施する。	子育て推進課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	⑥ その他の生涯学習関連施設の有効活用
施策の方針	学習機会の提供の場としてより一層の活用を図るため、さまざまな生涯学習関連施設の適正な管理運営を図る。また、地域でのコミュニティ活動の場として小・中学校施設の地域開放の推進を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容 の 実施 の 方 針	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						課題				課題					
ア その 他 の 生 涯 学 習 関 連 施 設 の 充 実	67	講座の開催等、施設 の特性を生かした多様な学習機会 の提供	福祉センター、老人憩の家、地域協働支 援センター、防府地域職業訓練セン ター、三田尻塩田記念産業公園、中高年 齢労働者福祉センター（サンライフ防府） 等の生涯学習関連施設において、それぞ れの目的に応じた多様な学習機会の提 供を行うとともに、活用の促進に努める。 また、学習機会の提供の場としてより一層 の活用を図るため、サービスの向上や施 設の適正な維持管理に努める。	市民活動の支援（まちづくり講座の開催、 市民活動に関する情報提供、団体運営 相談、市民活動団体の活動と市民との マッチング）	15	A		市民活動の支援（まちづくり講座の開催、 市民活動に関する情報提供、団体運営 相談、市民活動団体の活動と市民との マッチング）	40	A		市民活動の支援として、地域や学校、企 業等さまざまな主体が関わり合い、地域 課題の解決が促されるように、協働する仕 組みづくりを支援した。  さまざまな主体が関わることで、事業計画 が予定通りに進まないこともあった。	B	協働を進めていくことは、これまで関わり 合いが薄かったさまざまな主体が、共に 事業を進めていくことになるので、どうし ても摩擦が起きてしまう。そうした状況に対 して、市民活動支援センターが間に入り、 双方の意見を聞くことで、より協働へとつ ながるよう支援していく。	地域振興課
						到達度	4			到達度	3				
						事業効果	4			事業効果	4				
						効率性	4			効率性	4				
						B				B					
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	4			効率性	4				
	68	施設の適正な維持 管理と活用の促進	【防府地域職業訓練センター】 各種職業訓練や講座等	・各福祉センターで教養講座を開催  ・各福祉センターだより（年3回）	4,343	B		・各福祉センターで教養講座を開催  ・各福祉センターだより（年3回）	4,425	B		計画的に教養講座を開催した。  講師の高齢化	B	引き続きセンターだよりで活用の促進を図 り、教養講座で多様な学習機会の提供を 行う。	福祉総務課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
						B				B					
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
			市内14施設の老人憩の家について、地 元団体である老人憩の家運営委員会を 指定管理者として、各種サークル活動や 教養講座を開催した。	7,199	B		市内14施設の老人憩の家について、地 元団体である老人憩の家運営委員会を 指定管理者として、各種サークル活動や 教養講座等を開催した。	5,723	B		各地区における老人クラブや地域活動の 拠点として利用されている。  地域において、会長及び管理人の後継 者がいないことなど、今後の管理運営面 に課題がある。	B	毎年実施の利用者アンケートの内容を踏 まえながら、今後も各地区の高齢者に利 用していただけるよう事業を推進する。	高齢福祉課	
					到達度	3			到達度	3					
					事業効果	3			事業効果	3					
					効率性	3			効率性	3					

基本目標	1 いっでもどこでも学べる環境づくり
施策	(4) 学習相談体制の充実
施策の展開	① 生涯学習に関するあらゆる相談への対応
施策の方針	高度化・多様化した学習ニーズに対応するため、生涯学習専門員による生涯学習相談コーナーの充実を図る。また、公民館、図書館、青少年科学館といった社会教育施設に専門職員を配置し、市民の学習環境の充実を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目（到達度、事業効果、効率性）】
それぞれ1～4（点）で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容 の 実施 の 状況	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
ア 生涯 学習 相談 コー ナー の 充 実	69	生涯学習に関する資料の充実	ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」をはじめとする生涯学習情報の収集・提供	情報紙を発行・ホームページに掲載 まなぼら発行4回（4回） まなぼうやだより発行（3回）	152	B		情報紙を発行・ホームページに掲載 まなぼら発行4回（4回） まなぼうやだより発行（3回）	152	B		関係機関と定期的に情報交換を行いながら、計画どおり実施した。	B	関係機関と連携し、より充実した内容の情報紙を目指す。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	70	生涯学習専門員の相談対応能力向上のための研修の実施	生涯学習相談コーナーに生涯学習専門員を配置することにより、市民からの相談にきめ細かく対応する。また、各種研修会へ参加し、相談対応能力の向上に努める。  ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」の利用等の学習相談・講師紹介・生涯学習情報の提供	関係機関・団体との情報交換の場に積極的に参加 人材バンク研修会に参加 ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」登録者をコーディネートし、講座を開催：225件 学習相談・講師紹介・生涯学習情報の提供等：762件	363	B		関係機関・団体との情報交換の場に積極的に参加 人材バンク研修会に参加 ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」登録者をコーディネートし、講座を開催：215件 学習相談・講師紹介・生涯学習情報の提供等：596件	335	B		関係機関・団体との情報交換の場に積極的に参加することができた。 市民の方からの相談に適宜対応することができた。  市民からの学習相談にきめ細かく対応し、また、コーディネートを行うため、引き続き、積極的な情報交換の場への参加や情報収集が必要である。	B	引き続き生涯学習専門員や職員が、学習相談に必要な研修へ参加する。また、情報交換の場に積極的に参加する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

内容の 施策	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課								
												課題											
イ 社会 教育 施設 職員 の 資 質 向 上	71	社会教育に関わる 専門的職員(社会 教育主事・公民館 主事・社会教育指 導員・司書・学芸 員)の適正な配置	専門的知識を要する施設(生涯学習課・ 公民館・文化財・図書館及びアスピラ ート・ソラール)については、専門職員の適 正な配置に努める。	公民館主事(15人) 社会教育指導員(16人) 派遣社会教育主事(2人) 社会教育主事(2人) 学芸員(3人)	-	B		公民館主事(15人) 社会教育指導員(16人) 派遣社会教育主事(2人) 社会教育主事(2人) 学芸員(3人)	-	B		各施設に専門職員を配置することで、講 座内容の充実や他の機関との円滑な連 携に繋がっている。  専門職員の確保が困難である	B	専門職員の確保及び適正な配置に努め る。	生涯学習課								
						到達度	3			到達度	3												
						事業効果	3			事業効果	3												
						効率性	3			効率性	3												
		社会教育施設にお ける学習相談体制 の充実	司書(17人)を配置	-	B		司書(16人)を配置	-	B		指定管理業務基準書の条件を満たしてい る。  専門職員の適切な配置。	B	前年度同様に、専門職員の適切な配置 に努める。	教育総務課									
					到達度	3			到達度	3													
	72	専門的職員への研 修機会の充実	最新情報の収集やスキルアップのため、 様々な研修に参加する。  公民館職員研修等 司書 館内・外部研修等 文化財保存活用地域計画等連絡協議会 への参加等	日程の調整がつかず不参加となった。	-	D		日程の調整がつかず不参加となった。	-	D		職員の日程の調整がつかず不参加となっ た。  人員の余裕がないため、研修会に職員を 参加させることが難しい。	B	日程等が合えば、引き続き研修会に参加 する。	生涯学習課								
						到達度	1			到達度	1												
						事業効果	1			事業効果	1												
						効率性	1			効率性	1												
						司書ほか 館内研修(2回)、外部研修参加(25回) 昨年度に引き続き、Web研修会に積極的 に参加	-			B						司書ほか 館内研修(2回)、外部研修参加(17回) 昨年度に引き続き、Web研修会に積極的 に参加	-	B		経験年数の短い職員を中心に、レファレ ンス、図書修理、児童サービスなどの研修 に積極的に参加した。  研修成果の業務への反映と、他の職員へ の普及により、館全体のサービス向上に 努める。	B	研修成果を、館全体のサービス向上に活 かす工夫をする。	教育総務課
										到達度	4							到達度	3				
・4/28山口県主催の市町文化財行政担 当者研修会「文化財を活用した文化観 光」に参加 ・7/11～14 奈良文化財研究所主催文化 財担当者専門研修「木質文化財の科学 的調査基礎課程」に参加 ・7/15 山口県史跡整備市町協議会主催 の研修「城から読み解く歴史」に参加 ・2/9山口県市町埋蔵文化財連絡協議会 主催の研修「三次元計測」について」に参 加 ・4/28山口県主催の市町文化財行政担 当者研修会「文化財を活用した文化観 光」に参加 ・7/11～14 奈良文化財研究所主催文化 財担当者専門研修「木質文化財の科学 的調査基礎課程」に参加 ・7/15 山口県史跡整備市町協議会主催	-	B		5/1山口県主催の令和6年度市町文化財 行政担当者会議及び研修会に参加  6/12～14奈良文化財研究所主催の「令 和6年度文化財担当者専門研修 文化財 石垣保存整備(講義)課程」に参加	-	B		業務に活かせる専門的知識が習得でき た。  新たな専門知識、技術を習得し、専門職 員全員に共有を図り、課として市民ニーズ に応えていく必要がある。	B	オンライン研修への積極的な参加に努め る。	文化振興課												
		到達度	3			到達度	3																
		事業効果	3			事業効果	3																
		効率性	3			効率性	3																



基本目標	1 いっでもどこでも学べる環境づくり
施策	(5) 産学公民の教育ネットワークの強化
施策の展開	① 多様な人々・機関の参加による教育ネットワークづくりの推進
施策の方針	生涯学習を推進していくため、防府市生涯学習推進協議会の機能を強化し、行政、市民、民間団体、企業、大学等との連携を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

施策の内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
ア  防府市生涯学習推進	73	生涯学習関連事業の評価機能の強化	防府市生涯学習推進会議において生涯学習推進計画の進捗状況の把握と評価を行い、次年度に向けての見直しや改善を行う。	防府市生涯学習推進会議を開催 開催日：令和5年7月6日（木） 内容 ・第3次防府市生涯学習推進計画 令和4年度事業の実施状況について ・第3次防府市生涯学習推進計画 令和5年度事業の取組について	64	B		防府市生涯学習推進会議を開催 開催日：令和6年5月30日（木） 内容 ・第3次防府市生涯学習推進計画 令和5年度事業の実施状況について ・第3次防府市生涯学習推進計画 令和6年度事業の取組について ・第4次防府市生涯学習推進計画 の策定について	53	B		R8年度からの第4次生涯学習推進計画の策定に向け、スケジュール等の確認を行い、意識調査を行った。	B	R7年度は計画の進捗状況の把握と評価、次年度に向けての見直しだけでなく、計画の策定に向け、複数回の会議を開催する必要がある。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
イ  市と民の活動連携支援センター	74	ボランティア協働情報紙「まなぼら」の充実	ボランティア、協働について同様の取り組みをしている関係機関（市民活動支援センター、社会福祉協議会、生涯学習課）が連携して、情報紙の作成や配布を行い、より広く市民に情報発信を行う。また、定期的に情報交換を行うことで、情報紙の充実を図る。	情報紙編集のための企画・調整会議（12回） まなぼら発行4回（6月・9月・12月・3月）各月2,600部	180	B		情報紙編集のための企画・調整会議（12回） まなぼら発行4回（6月・9月・12月・3月）各月2,600部	180	B		定期的に情報交換を行いながら、紙面の充実に努め、例年どおり実施した。	B	3機関が協働で作成し、情報交換を行うことで、共通のテーマについてお互いの特徴を出しながら、より充実した内容の情報紙を目指す。 また、紙面の編集を担当する機関や発行回数などについて協議を行い、見直しを図る。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	75	市民活動団体相互のネットワークの構築	市民活動団体の活動の場を提供し、市民活動に関する情報の提供及び相談業務を行う。 広く市民に市民活動を啓発するとともに、市民活動団体相互のネットワーク化を図る。	「交流セミナー」の開催、「ほうふ市民活動フェスタ2023」の開催、人材・団体養成講座等の開催 登録団体の活動紹介、催し物・イベント情報の提供、助成金情報の提供など（HP、市広報、市民活動支援センター情報BOX等）	895	A		「交流セミナー」の開催、「ほうふ市民活動フェスタ2024」の開催、人材・団体養成講座等の開催 登録団体の活動紹介、催し物・イベント情報の提供、助成金情報の提供など（HP、市広報、市民活動支援センター情報BOX等）	1,098	B		「交流セミナー」は、団体交流会として実施した。協働を主体とした取組の報告を行ったところ、報告団体や事例発表者と会場に参加していた団体とが、次年度の取り組みに向けたつながりを作ることができた。 「ほうふ市民活動フェスタ2024」は、「県民活動フェスタ」と協働開催をした。 令和6年度は、ルルサス防府の外壁補修工事のため、「市民活動フェスタ2024」は「まちかどフェスタ」との協働開催を行うことができなかった。若い世代が市民活動団体と関わる機会を創出することは、市民活動を知る機会を増やすことが必要である。	B	「交流セミナー」の団体交流会は、市民活動団体や様々な主体とが交流する場であり、市民活動支援センターが今年度に行ってきた事業の発表の場でもある。また、「市民活動フェスタ2024」は幅広い世代が交流し、市民活動を知る機会、触れる機会となっている。どちらの事業も引き続き実施し、学生を中心に若い世代を巻き込む形のネットワーク形成及び強化に力を入れることを目的に実施する。	地域振興課
						到達度	4			到達度	3				
						事業効果	4			事業効果	3				
						効率性	4			効率性	3				

施策内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課							
												課題										
ウ 大学、 企業等との 連携強化	76	大学や企業等の専門性を生かした学習機会の充実	大学や企業における専門知識を有する人材を活用し、公開講座や学習講座の開催に努める。 山口大学公開講座、山口県立大学サテライトカレッジ等	山口大学公開講座(2回) 「アメリカ文学をめぐって」参加者数(延べ11人)	-	B		山口大学公開講座(2回) 「災害と現代社会」参加者数(延べ16人)	-	B		計画どおりに事業を実施することができた。	B	継続して実施する。	生涯学習課							
						到達度	2			到達度	3											
						事業効果	3			事業効果	3											
						効率性	3			効率性	3											
						山口県立大学サテライトカレッジを防府商工高等学校及び右田福祉センターで開催 参加者数(延べ18人) ※No. 79に再掲	106			B		山口県立大学サテライトカレッジ「景観写真講座」を防府商工高校及び富海公民館で開催 参加者数(延べ18人) ※No.79に再掲				107	B		開催後の山口県立大学へのアンケート調査において、満足度が高い結果が得られた。 山口県立大学と地域をつなぐ講座となり、景観という観点において地元への活性化にも寄与している。 山口県立大学サテライトカレッジの成果の検証を行うとともに、地域課題解決へ向けた産学官民連携の仕組みづくりが求められる。	B	山口県立大学サテライトカレッジを継続して開催する。	都市計画課
										到達度	3						到達度	3				
										事業効果	3						事業効果	3				
										効率性	3						効率性	3				
	77	大学や企業等との協働によるイベント開催の推進	大学や企業等との協働によるイベント開催を行い、集客アップを図る。 愛情防府フリーマーケット、「家庭の日」親子ふれあいイベント等	愛情防府フリーマーケット	500	B		愛情防府フリーマーケット	300	B		計画どおりにイベントを実施することができた。	B	イベントの充実及び関係団体との連携を強化し、集客アップを図る。	観光振興課							
						到達度	3			到達度	3											
						事業効果	3			事業効果	3											
						効率性	3			効率性	3											
						大学との協働により、「家庭の日」親子ふれあいイベントをルルサス文化センターで開催した。 【山口短期大学】6回(6月、7月、10月、11月、1月、2月) 【周南公立大学】2回(9月、12月) ※No.79に再掲	234			B		大学との協働により、「家庭の日」親子ふれあいイベントをルルサス文化センターで開催した。(10/20のみ、キリンレモンスタジアム軽運動室で同時開催) 【山口短期大学】6回(6月、7月、10月、11月、1月、2月) 10月はほうふスポーツフェスタにもブースを出展し、ルルサス文化センターと同時に開催した。 ※No.79に再掲				234	B		場所と時間を固定しているため、繰り返し利用される家庭も増えてきた。  参加者の増加に応じた内容や会場の工夫が必要である。	B	参加者のアンケートや開催状況をもとに、イベントの内容や会場について大学と協議し、よりよいイベントとなるよう努める。 また、青少年ボランティアと連携した実施を検討する。	生涯学習課
										到達度	3						到達度	3				
										事業効果	3						事業効果	3				
										効率性	3						効率性	3				
	78	放課後子ども教室への学生の参加の促進	「放課後子ども教室」において、高校生や大学生が学習活動や体験活動等の支援にボランティアとして参加することを通して、「放課後子ども教室」の活動の充実を図る。	放課後子ども教室から高校生ボランティアへの要請がなく、活動への参加がなかった。	-	C		県のボランティア派遣事業を活用したが、高校側と日時についてマッチングがうまくいかず、高校生の参加が叶わなかった。	-	C		高校生の参加については、放課後子ども教室の開催曜日が平日であることから難しいのが現状である。  ボランティアの要請先を高校のみにしているの、市内の短大にも要請することも検討する必要がある。	C	青少年ボランティア推進会議の場で高校だけでなく、短大に対しても放課後子ども教室へのボランティア参加を要請する。	生涯学習課							
						到達度	2			到達度	2											
						事業効果	1			事業効果	1											
						効率性	1			効率性	1											

内容 施策 の	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
ウ 大学、 企業等との 連携強化	79	共同研究事業の実施等、地域・大学・企業等がつながる仕組みづくりの支援	「学」と「公」の相互連携を通じて、様々な地域課題の解決を図り、もって地域の活性化を達成するために、双方が持つ諸財産を有効に活用できるよう連携を図る。  「家庭の日」親子ふれあいイベント、山口県立大学サテライトカレッジの開催等 山口県立大学との共同研究等	大学との協働により、「家庭の日」親子ふれあいイベントをルルサス文化センターで開催した。 【山口短期大学】6回(6月、7月、10月、11月、1月、2月) 【周南公立大学】2回(9月、12月)  ※No.77の再掲	361	B		大学との協働により、「家庭の日」親子ふれあいイベントをルルサス文化センターで開催した。(10/20のみ、キリンレモンスタジオ軽運動室で同時開催) 【山口短期大学】6回(6月、7月、10月、11月、1月、2月)  ※No.77の再掲	234	B		場所と時間を固定しているため、繰り返し利用される家庭も増えてきた。  参加者の増加に応じた内容や会場の工夫が必要である。	B	参加者のアンケートや開催状況をもとに、イベントの内容や会場について大学と協議し、よりよいイベントとなるよう努める。 また、青少年ボランティアと連携した実施を検討する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
				山口県立大学サテライトカレッジを防府商工高等学校及び右田福祉センターで開催 参加者数(延べ18人)  ※No. 76の再掲	106	B		山口県立大学サテライトカレッジを防府商工高校及び富海公民館で開催 参加者数(延べ18人)  ※No.76の再掲	107	B		開催後の山口県立大学へのアンケート調査において、満足度が高い結果が得られた。 山口県立大学と地域をつなぐ講座となり、景観という観点において地元への活性化にも寄与している。 山口県立大学サテライトカレッジの成果の検証を行うとともに、地域課題解決へ向けた産学官民連携の仕組みづくりが求められる。	B	山口県立大学サテライトカレッジを継続して開催し、来年度は、高校生、一般の枠を設けず一般(高校生以上)として募集し、幅広い世代で多様な感性が交わり、より有意義なものとなるように努める	都市計画課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
				・防府市サテライトルームの設置	-	C		山口県立大学への委託研究(1件)	500	B		山口県立大学への委託研究により、地域課題の解決を図った。  共同研究による課題解決が促進されるよう、改めて大学と市のニーズを整理し直す必要がある。	B	大学と市の双方がもつ諸財産が有効に活用できるよう、引き続き連携した取り組みを行っていく。	政策推進課
						到達度	2			到達度	3				
						事業効果	2			事業効果	3				
						効率性	2			効率性	3				
	80	企業等に関する出前講座や『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』のメニューの充実及び活用の促進	多様な分野の学習メニューとして、民間事業者や民間企業との連携による講座を企画・実施する。	「指導者バンク」企業登録数 9件 講座実施数: 10件	-	B		「指導者バンク」企業登録数 10件 講座実施数 10件	-	B		企業ごとに複数のメニューがあり、内容も充実している。毎年申込があるなど、好評である。  登録者が固定化しているため、新規登録の開拓が必要である。	B	登録企業の新規開拓のため、関係機関と情報を共有するなど、引き続き情報収集を行っていく。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	81	防府地域職業訓練センター等における各種職業訓練や講座の実施	防府地域職業訓練センターと連携し、各種職業訓練や講座を実施する。	防府地域職業訓練センターパソコン講座〔種目〕 ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット、アクセス、ホームページ、広告・チラシ・POP作成等  ※No.22の再掲	-	B		防府地域職業訓練センターパソコン講座〔種目〕 ワード、エクセル、エクセル関数、パワーポイント、アクセス、ホームページ、CAD、SNS活用  ※No.22の再掲	-	B		民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入しており、多様化するニーズに対応した講座を開催している。  効果的なPRが求められる。	B	継続して実施し、勤労者、求職者等の職業能力の向上を促進する。	商工振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	4			効率性	4				

基本目標	2 ひとりひとりがきらく人づくり
施策	(1) 生涯学習を支える人材の育成
施策の展開	① 生涯学習を支える人材育成の推進
施策の方針	教育・福祉・スポーツ・環境など各分野の知識や技術を習得するための研修を継続して開催し、ボランティアの育成機会の充実を図る。 また、生涯学習指導者の指導力を高める研修の場を継続して提供し、育成機会の充実を図るとともに、情報交換や交流の場の設定により、人材育成に努める。

事務事業の進捗状況

施策の内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント 課題		今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
ア ボ ラ ン テ ィ ア 育 成 機 会 の 充 実	82	生涯学習ボランティア養成講座の充実	子どもに関わるボランティアの養成を目的に、毎年開催している生涯学習ボランティア養成講座の内容の充実を図る。	放課後子ども教室等、子どもと関わるボランティア活動の場で活用できることを目的として、バレーアートやニュースポーツを内容とした講座を実施。(2回、延べ参加者28人)	9	B		放課後子ども教室や留守家庭学級等、子どもと関わるボランティア活動の場で活用できることを目的として、牛乳パックを使ったランタン作りを内容とした講座を実施。(1回、参加人数14人)	7	B		製作時のポイントや環境に配慮した物を使って製作する意義についても講座を実施した。参加者からも好評を得た。  今年度は、年1回の開催となった。		A	土日など参加しやすい曜日に開催することも視野に入れるとともに、実施回数の増加や講座の内容もより幅広くなるよう検討する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3					
						事業効果	3			事業効果	3					
						効率性	3			効率性	3					
	83	防府読売マラソン大会等でのボランティア体験機会の提供等、スポーツボランティアに関する情報の提供(再掲)	誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに取り組み、実践できる生涯スポーツ社会の実現を目指し、スポーツボランティアの育成に努める。	地域や企業によるボランティアを募集し、人材を確保した。 No.43の再掲	-	B		地域や企業によるボランティアを募集し、人材を確保した。 ほうふスポーツフェスタでは学生ボランティアを募集して、ブース補助を依頼 ※No.43.91の再掲	-	B		企業・学生・一般と様々な人と共に大会・イベントを創り上げ、盛り上げることができた。  年々事業規模が大きくなる中で、今後は更に人員が必要になってくる。		A	大会規模に合せた人員確保を継続して実施していく。	スポーツ振興課
						到達度	2			到達度	3					
						事業効果	3			事業効果	3					
						効率性	3			効率性	3					
	84	森林ボランティア等の環境ボランティア活動の促進	水源となる佐波川上流の森林整備が持続的に進められ、健全な状態に保たれるように森林ボランティア活動による森林整備及び環境保全への意識向上を図る。  佐波川流域森林整備事業、森林整備事業・林業体験学習等	佐波川流域森林整備事業(2回) 森林整備事業・林業体験学習 ※R2年度よりコロナウイルスの影響を受け、今年度も一般ボランティアの参加なし。6月・11月・3月の3回実施予定であったが、11月は中止となったため2回の実施となった。	300	B		佐波川流域森林整備事業(2回) 森林整備事業・林業体験学習 1回目…11/9、2回目…3/8 ※6月・11月・3月の3回実施予定であったが、悪天候により6月は中止となったため2回の実施となった。	300	B		佐波川流域の大平山農村公園周辺で、森づくりのための下刈作業や樹木の植栽等を実施した。おおむね計画どおり実施でき、期待していた事業効果を得られた。  今年度から業者・過去の参加者に参加を呼びかけたが、例年参加者がほぼ固定されていることが課題である。新規の参加者を募るため、情報発信等を引き続き行っていく必要がある。		B	市内ボランティアや山口県、森林組合の協力を得て、内容の見直しや充実を図り、引き続き森林ボランティア活動への参加を呼びかけていく。	農林漁港整備課
						到達度	3			到達度	3					
						事業効果	3			事業効果	3					
						効率性	3			効率性	3					
	85	手話や点訳奉仕員、要約筆記者等、障害のある人の社会参加を支援するボランティアの育成	障害者の日常を支援するための意思疎通支援者(手話、要約筆記、点訳奉仕員、音声訳ボランティア)を養成するとともに、障害者施設でのボランティア体験やボランティアの集いを開催し、ボランティアの育成に努める。	手話奉仕員養成講座(25人修了) 点訳奉仕員養成講座(3人修了) ※要約筆記者養成講座は隔年開催のため、R5は実施なし	950	B		手話奉仕員養成講座(9人修了) 要約筆記者養成講座(1人修了) 点訳奉仕員養成講座(4人修了)	1,480	B		市広報等に各講座の募集記事を掲載しPRを行い、予定どおり講座を開催することができた。  受講者増加に向けた取組が必要である。		B	養成講座の受講者が増加するよう、市広報等を通じてPR活動に努める。	障害福祉課
						到達度	3			到達度	3					
						事業効果	3			事業効果	3					
						効率性	3			効率性	3					

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

施策 内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)	評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課	
						課題									
イ 生涯学習指導者の 育成機会の充実	86	『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』登録者の研修の充実	指導力を高める研修の場の設定、講師、指導者、生涯学習ボランティア等の多様な人材間の情報交換・交流の場の設定などのため、研修会を開催する。	人材バンク研修会を開催。子どもとの関わり方についての講話や、登録者同士の交流の機会を設けた。 ・人材バンク研修会 開催日 令和6年1月26日(金) 内容 活動紹介、講話、情報交換等 参加者数 23人(うち指導者バンク20人)	-	B		人材バンク研修会を開催。講座参加者への配慮についての講話や、登録者同士の交流の機会を設けた。 ・人材バンク研修会 開催日 令和7年2月17日(月) 内容 活動紹介、講話、情報交換等 参加者数 20人(うち指導者バンク19人)	-	B		計画どおりに実施することができた。 参加者からも、概ね好評であった。 ただ、講話の内容や交流時間の確保についての意見もあり、改善の余地がある。	B	内容や開催時間について、アンケート結果をもとに調整を行い、継続して実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	87	スポーツ推進委員等の指導者の研修の充実	スポーツ推進委員連絡協議会の開催を通じ、各委員の連携を密にするとともに、各種研修会や講習会へ参加することで資質の向上を図る。 市民体力テスト・ニューススポーツ体験会等の運営	防府市スポーツ推進委員連絡協議会の開催(計8回) 市民モルック大会の運営(計2回) 県・県央スポーツ推進委員連絡協議会への参加(計3回) 研修会への参加(計3回) 放課後子ども教室等の実施(計7回) リーダー養成講習会への参加(1人)	178	B		防府市スポーツ推進委員連絡協議会の開催(総会・理事会含む 10回) 市民モルック大会の運営 研修会への参加(計5回) 放課後子ども教室等の派遣(計6回)	114	B		会議や研修会の出席率は昨年度よりも向上した。市民モルック大会も防府市スポーツ協会100周年事業として実施して、大盛況であった。  主管イベントの開催の際にも、事務局の負担が大きい。委員主導で企画・運営をしていくような仕組みを作る必要がある。	B	事業ごとに少人数の委員会のようなものを設定して、委員同士での話し合いや自主性を尊重していきたい。	スポーツ振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	88	県主催の「地域協育ネット」コーディネーター養成講座の積極的な活用	学校や支援組織・団体との連絡調整を担い、キーパーソンとして果たす役割が重要なコーディネーターを育成するため、県が主催するコーディネーター養成講座を活用する。	県主催「地域協育ネット」コーディネーター養成講座修了者(4人)	172	B		県主催「地域協育ネット」コーディネーター養成講座修了者(4人)、「地域協育ネット」コーディネーターステップアップ講座修了者(1名)	-	B		受講者数、修了者数とも例年並みだった。また、新たに立ち上がった家庭教育支援チームに加わり、就学時子育て学習会のファシリテーターとして活動した。  県の養成講座受講者を増やすことと、修了者の活躍の場を増やすことが必要である。	B	県の養成講座の周知を市子ども会連合会と防府市PTA連合会の総会で周知するとともに、研修会や交流会などで実働している方々に周知する機会を設ける。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

基本目標	2 ひとりひとりがきらめく人づくり
施策	(2) 学習成果を生かす機会の充実
施策の展開	① 学習成果を活用する機会の充実
施策の方針	防府市市民活動支援センター、防府市社会福祉協議会と連携し、ボランティアのネットワーク化や、コーディネート機能の充実などにより、ボランティア活動の支援に努めるとともに、ボランティアが活躍できる場づくりを進める。 また、『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』『支援者バンク』の新たな人材の掘り起こしを進め、登録者の分野及び人数の拡充を図ることで整備を進めるとともに、『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』登録者による公開講座の開催により、市民への周知と積極的な活用を図る。

事務事業の進捗状況

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目（到達度、事業効果、効率性）】
それぞれ1～4（点）で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						課題				課題					
ア 各種 ボラン ティア 活動の 支援	89	市社会福祉協議会との連携によるボランティア活動の支援	市広報や情報誌の発行を通じてボランティア参加者の募集を行うとともに、社会福祉協議会、市民活動支援センターと協力しながら情報誌「まなぼら」を発行し支援を行う。 地域振興課・生涯学習課・社会福祉協議会・市民活動支援センターなどでボランティアに関する協議をする。	情報紙「まなぼら」発行(4回) ※No.90に再掲	180	B		情報紙「まなぼら」発行(4回) ※No.90に再掲	152	B		定期的に情報交換を行いながら、紙面の充実に努め、例年通り実施した。	B	3機関が協働で作成し、情報交換を行うことで、共通のテーマについて各機関の特徴を出しながら、充実した内容の情報誌を目指す。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
				情報紙「まなぼら」発行(4回) 市民活動ボランティアマッチングの運用	-	B		情報紙「まなぼら」発行(4回) 市民活動ボランティアマッチングの運用 ※No.90に再掲	-	B		情報紙を3者で協働発行することで、市民や市民活動団体に多様な情報発信をすることができている。	B	3者の協働による発行の強みを生かした情報発信に努める。	地域振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	4			効率性	4				
	90	市民活動支援センターとの連携によるボランティア活動の支援	市広報や情報誌の発行を通じてボランティア参加者の募集を行うとともに、社会福祉協議会、市民活動支援センターと協力しながら情報誌「まなぼら」を発行し支援を行う。 地域振興課・生涯学習課・社会福祉協議会・市民活動支援センターなどでボランティアに関する協議をする。	情報紙「まなぼら」発行(4回) ※No.89の再掲	180	B		情報紙「まなぼら」発行(4回) ※No.89の再掲	152	B		定期的に情報交換を行いながら、紙面の充実に努め、例年通り実施した。	B	3機関が協働で作成し、情報交換を行うことで、共通のテーマについて各機関の特徴を出しながら、充実した内容の情報誌を目指す。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
情報紙「まなぼら」発行(4回) 市民活動ボランティアマッチングの運用				258	B		情報紙「まなぼら」発行(4回) 市民活動ボランティアマッチングの運用 ※No.89の再掲	152	B		情報紙を3者で協働発行することで、市民や市民活動団体に多様な情報発信をすることができている。	B	3者の協働による発行の強みを生かした情報発信に努める。	地域振興課	
					到達度	3			到達度	3					
					事業効果	3			事業効果	3					
					効率性	4			効率性	4					
91	市の行事等におけるボランティア活動の機会の提供	市の行事において、積極的な情報提供を行い、参加を促す。  防府読売マラソン等  成人式、放課後子ども教室等	関係者(学生や企業)を対象として防府読売マラソンボランティアの募集を行った。	-	B		地域や企業によるボランティアを募集し、人材を確保した。 ほうふスポーツフェスタでは学生ボランティアを募集して、ブース補助を依頼 ※No.43.83の再掲	-	B		企業・学生・一般と様々な人と共に大会・イベントを創り上げ、盛り上げることができた。  年々事業規模が大きくなる中で、今後は更に人員が必要になってくる。	A	大会規模に合せた人員確保を継続して実施していく。	スポーツ振興課	
					到達度	3			到達度	3					
					事業効果	3			事業効果	3					
					効率性	3			効率性	3					
			放課後子ども教室でのサポーターとしての活動(無償ボランティアの登録人数: 248人)	-	B		放課後子ども教室でのサポーターとしての活動(無償ボランティアの登録人数: 290人)	-	B		地域学校協働活動推進員、放課後子ども教室コーディネーターが中心となり活動の周知を行った。  無償ボランティアの新規登録者が少なく、登録者数が減少している。また、登録者の中で、活動へ参加する人数も減ってきている。	B	より多くの方がボランティアとして関わることできるように情報提供や支援の仕方や周知する場を検討する。	生涯学習課	
					到達度	3			到達度	3					
					事業効果	3			事業効果	3					
					効率性	3			効率性	3					



施策内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						課題				課題					
ア 各種ボランティア活動の支援	92	三世代交流事業等、高齢者がいきいきと活動できるボランティアの場の提供	各地区において三世代交流事業として、さまざまな催しや教室を開催する。 また、指導者バンクへの登録を呼びかけ、地域を越えた活動の場を提供する。	各地区において、体験学習やスポーツ交流等を実施（実施地区数15箇所）計123回、参加者（延べ5,278人）	400	B		各地区において、体験学習やスポーツ交流等を実施（実施地区数14箇所）計124回、参加者（延べ4,489人）	373	B		体験学習やスポーツ交流等を通して、三世代間の交流を図ることができた。	B	高齢者の生きがいづくりのため、今後も継続していく必要がある。	高齢福祉課
				到達度		3	到達度			3					
				事業効果		3	事業効果			3					
				効率性		3	効率性			3					
				65歳以上の指導者バンク登録者（68人）	-	B		65歳以上の指導者バンク登録者（60人）	-	B		専門員が一括で管理することで、相談対応や申込者との橋渡し等で細やかな対応ができています。	B	継続して実施する。	生涯学習課
				到達度		3	到達度			3					
				事業効果		3	事業効果			3					
				効率性		3	効率性			3					
イ ほうふ幸せます人材バンクの整備・活用	93	『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』の周知及び登録者による公開講座（学ぼうやセミナー）の開催	生涯学習に関する豊富な知識や経験、技能を持つ個人や団体を指導者バンクに登録し、自発的な学習や活動の場へ指導者として派遣することで、市民の生涯学習活動を推進するとともに制度の周知を図る。 また、登録者による公開講座を開催し、市民の自主的な学習を支援する。	実施件数(225件) 登録状況：団体(52)、個人(102)、企業(9) ・学ぼうやセミナー 【夏季】令和5年7月30日(日)開催 18講座、参加者(延べ465人) 【春季】令和6年3月3日(日)開催 21講座、参加者(延べ457人) ・わくわく学び塾 4講座、参加者(延べ59人)	127	B		実施件数215(件) 登録状況：団体(46)、個人(88)、企業(10) ・学ぼうやセミナー 【夏季】令和6年7月28日(日)開催 19講座、参加者(延べ459人) 【春季】令和7年3月2日(日)開催 25講座、参加者(延べ916人) ・わくわく学び塾 4講座、参加者(延べ66人)	317	B		学ぼうやセミナーなど、概ね計画どおりに事業を実施することができた。 利用申し込みは増加傾向にあり、活動について一定の効果があると思われる。	B	毎年市広報等で講師募集について掲載しており、一定の効果が見られる。引き続き周知及び情報収集を行い、新たな指導者の登録を呼びかける。 開催時期の調整や企画内容を検討しながら、引き続き指導者バンク登録者の自主的な企画・運営による「学ぼうやセミナー」や「わくわく学び塾」などの講座を開催する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	94	「指導者バンク」と「支援者バンク」の一体的な運用の促進	「指導者バンク」と「支援者バンク」の一体的な運用を行い、「ほうふ幸せます人材バンク」の充実を図る。また、研修会を開催し、情報交換や交流の場を設ける。	利用者のニーズに応じて指導者バンクと支援者バンクを使い分けることで人材バンクの効果的な活用に努めた。 研修会を開催し、活動目的の整理を行うとともに今後どうしていきたいかということを考える機会を設けた。 ・人材バンク研修会 開催日 令和6年1月26日(金) 内容 活動紹介、講話、情報交換等 参加者数 23人	-	B		利用者のニーズに応じて指導者バンクと支援者バンクを使い分けることで人材バンクの効果的な活用に努めた。 研修会を開催し、講座参加者への配慮についての講話や、登録者同士の交流の機会を設けた。 ・人材バンク研修会 開催日 令和7年2月17日(月) 内容 活動紹介、講話、情報交換等 参加者数 20人	-	B		概ね計画どおりに事業を実施できた。	B	継続して実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

基本目標	2 ひとりひとりがきらくめく人づくり
施策	(2) 学習成果を生かす機会の充実
施策の展開	② 学習成果を発表する機会の充実
施策の方針	学習した成果を発表することは、社会への還元となるとともに、学習者にとっても喜びとなり、更なる学習意欲へとつながる。作品展、発表会の開催や、活動のPR展示を行い、日頃の学習成果の発表の場を提供する。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目（到達度、事業効果、効率性）】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容の 施策	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)	評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課				
						課題												
ア 学 習 成 果 発 表 の 機 会 づ く り	95	生涯学習フェスティバル等、発表の場の提供	市民の日頃の学習成果の発表や、公開講座や体験コーナーを設け、様々な学習に触れることにより、市民一人ひとりの学習意欲を促進するとともに、様々な学習に触れる機会を創出し、自主的・主体的な学習を地域づくり、まちづくりに繋げていくことが重要であることを市民に啓発するために、生涯学習フェスティバルを開催する。	・生涯学習フェスティバル 開催日：令和6年3月3日（日） 来場者数：延べ2,534人 内容：31の個人・団体による自主講座・発表会・活動PR（展示）、文化センター市民教養講座作品展等	618	B		・生涯学習フェスティバル 開催日：令和7年3月2日（日） 来場者数：延べ6,806人 内容：自主企画講座、講演、ものづくり、文化センター市民教養講座・サークル作品展、学ぼうやコンテスト等	612	B		新庁舎開庁を記念して防府市役所で開催し、実行委員会企画のアトラクションを実施することで、来場者数の増加や親子連れの参加の増加につなげることができた。 開催場所に関わらず、来場者数を維持、増加できるよう効果的な周知や、企画等を検討、実施していくことが必要である。	B	チラシやポスターに一定の効果が見られた。より多くの方に生涯学習に触れていただけるように、引き続き効果的なチラシやポスターの作成や、ラジオや広報誌を活用し、講座等の幅広い周知に努める。	生涯学習課			
						到達度	3			到達度	3							
						事業効果	3			事業効果	3							
						効率性	3			効率性	3							
	96	地区文化祭や子ども読書フェスティバルでの作品展発表等、公民館・図書館での発表の場の提供	学習意欲の向上や学習活動の奨励を図ることを目的に、地区文化祭、公民館まつり、サークル作品展等を開催し 学習成果の発表の場を提供する。 また、読書活動の推進を図るため、図書館ボランティアグループ等と協働して、子ども読書フェスティバル・防府図書館まつりを開催する。	地区文化祭又は作品展での作品展発表（15館）  防府市子ども読書フェスティバル（5月28日） （参加17団体/参加者 延べ107人）  図書館まつり開催（10月29日） （参加17団体/参加者 延べ約1,177人）	-	B		地区文化祭又は作品展での作品展発表（14館）  防府市子ども読書フェスティバル（6月9日） （参加15団体/参加者 延べ174人）  図書館まつり開催（10月20日） （参加13団体/参加者 延べ約1,578人）	-	B		全ての公民館で実施することができた。 （野島漁村センターを除く）  サークル・ボランティア団体と協働し、防府市子ども読書フェスティバル、図書館まつりを実施し、概ね好評であった。	B	地区文化祭や作品展は、学習意欲の向上に寄与しているため、今後も継続して行っていく。  防府市子ども読書フェスティバル（6月8日）、図書館まつり（10月19日）で、開催予定。サークル・ボランティア団体と協働し、内容や会場を工夫し、集客に努める。	生涯学習課  教育総務課			
						到達度	3			到達度	3							
						事業効果	3			事業効果	3							
						効率性	3			効率性	3							
						B				B						防府市子ども読書フェスティバル、図書館まつりとともに、サークル・ボランティア団体との協働が必須のため、サークル・ボランティア団体数を増やすこと、また、高齢化が進む団体への新規入会者を増やす方策を検討する。		B
						到達度	3			到達度	3							
						事業効果	3			事業効果	4							
						効率性	3			効率性	3							
	97	市民文化祭等での各団体の発表の場の拡充	防府市文化協会に加入する各文化団体の「部門別文化祭」を開催する。また、市広報（各月1日号）に市民文芸コーナーを設け、文化活動に関心を持つ多くの市民に文化情報を提供し合い、防府市の文化振興を図る。  アスピラートでの市民ギャラリーの新設等	・市広報掲載（月1回） ・市民大会（1回）川柳、俳句、短歌、自由律俳句 ・第54回防府市市民文化祭（9月から12月）参加者（4,668人）（音楽祭、美術展他） ・市民ギャラリーの運営	7,700	B		・市広報掲載（月1回） ・市民大会（1回）川柳、俳句、短歌、自由律俳句 ・第55回防府市市民文化祭（9月から12月）参加者（5,091人）（音楽祭、美術展他） ・市民ギャラリーの運営	7,700	B		市民文芸コーナー、市民文化祭の開催、市民ギャラリーでのイベントを通して、文化活動発表の場を提供できた。  工夫した開催を心掛け、文化に触れる機会の提供を継続する必要がある。	B	多様な文化活動の発表の場を提供し、魅力ある市民文化祭を目指す。	文化振興課			
						到達度	3			到達度	3							
						事業効果	3			事業効果	3							
						効率性	3			効率性	3							
	98	障害者ふれあい芸術展の開催等、障害のある人が学習成果を発表する場の提供	障害者ふれあい芸術展を開催し、障害者の創作活動の発表の場を確保する。主催する防府市障害者福祉団体連合会に対して、開催の支援を行う。  ※No.36の再掲	防府市障害者ふれあい芸術展 ・令和6年2月3日～4日開催 応募総数 137点  ※No.36の再掲	-	B		防府市障害者ふれあい芸術展 ・令和6年12月21日～22日開催 応募総数 202点  ※No.36の再掲	-	B		報道機関等に芸術展の開催を案内し、PRを行った。  参加者や団体が固定化する傾向があり、新規参加者への呼びかけを積極的に行う必要がある。	B	市広報等に開催記事を掲載し、作品の募集及び来場について周知を行う。	障害福祉課			
						到達度	3			到達度	3							
						事業効果	3			事業効果	3							
						効率性	3			効率性	3							

基本目標	2 ひとりひとりがきらめく人づくり
施策	(3) 主体的な市民活動への支援
施策の展開	① 市民活動団体への活動支援
施策の方針	市民活動団体の活動を支援し、活性化を図る。特に、社会教育関係団体については、社会教育に関する公益的な活動を行い、生涯学習の推進に主体的に取り組む団体として、団体の自主性を尊重しながら、運営や活動の支援を行う。 また、公民館などでの講座修了者に対して、その学習成果を社会へ還元する意識の高揚を図り、市民活動団体として自立した活動ができるよう支援する。

事務事業の進捗状況

内容 の 施 策 の 内 容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)	評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課												
						課題																				
ア 社会 教育 関係 団体 の 運 営 の 支 援 及 び 学 習 サ ー ク ル 等 の 育 成	99	社会教育関係団体の継続的な活動への支援	社会教育関係団体の活動に対して支援する。  補助金の交付、キャンプ用品等の物品の貸出し	社会教育関係団体への補助金の交付、キャンプ用品等の物品の貸出し	3,228	B		社会教育関係団体への補助金の交付、キャンプ用品等の物品の貸出し	3,228	B		計画どおりに実施できた。	B	継続して補助事業を行う。	生涯学習課											
						到達度	3			到達度	3															
						事業効果	3			事業効果	3															
						効率性	3			効率性	3															
				社会教育関係団体への補助金の交付	11,094	B		社会教育団体への補助金の交付	12,868	B		計画どおりに補助金の交付をすることができた。	B	団体の自主性は尊重しながら、支援できる部分は積極的に支援する。	スポーツ振興課											
						到達度	3			到達度	3															
						事業効果	3			事業効果	3															
						効率性	3			効率性	3															
	100	市民活動支援センターを中心とした市民活動団体への支援	指定管理者(特定非営利活動法人 市民活動さぼーとねっと)により、様々な支援を行う。	市民活動への相談 人材の発掘・養成、団体の登録情報の収集・発信 市民活動団体のネットワークづくり 施設の利用 関係機関・団体との協働体制作り 登録201団体	1,513	B		市民活動への相談 人材の発掘・養成、団体の登録情報の収集・発信 市民活動団体のネットワークづくり 施設の利用 関係機関・団体との協働体制作り 登録206団体	1,070	B		市民活動団体から相談を受け、より具体的な個別支援へ移るケースが何件があった。日々の相談業務から、団体の抱える課題を見だし、支援へとつなげていくことができる。	B	市民活動団体の活動がより活発になるように、団体が抱える課題を捉え、団体の基盤強化を目的とした講座を年間を通して行う。 また、地域の団体や学校、行政等との連携・協働が促されるように、積極的な支援を行っていく。 団体支援を個別支援・個別相談にするなど、ニーズに合わせた支援を行う。	地域振興課											
						到達度	3			到達度	3															
						事業効果	3			事業効果	3															
						効率性	4			効率性	3															
										様々な社会教育団体や学習サークルへ情報交換や交流の場(生涯学習フェスティバル)を提供し、広く参加を呼びかける。	生涯学習フェスティバルを開催し、子ども会育成連絡協議会等の31の個人・団体が自主講座や発表会、活動PRを実施するとともに相互に交流した。					618	B		生涯学習フェスティバルを開催し、子ども会育成連絡協議会等の38の個人・団体が自主講座や発表会、活動PRを実施するとともに相互に交流した。	618	B		概ね計画どおりに事業を実施できた。	B	継続して推進する。	生涯学習課
																	到達度	3			到達度	3				
																	事業効果	3			事業効果	3				
																	効率性	3			効率性	3				

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

基本目標	3 学びを通じてつながる地域づくり
施策	(1) 地域活動の拠点づくり
施策の展開	① 公民館・学校を中心とした拠点づくり
施策の方針	地域の教育力向上を図るための中核となる施設として、共通する地域課題の解決に向けて取り組む拠点となるよう、公民館での活動を継続して支援する。 学校が、保護者や地域住民の力を活用した活動の拠点となるよう、学校支援活動を推進する。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目（到達度、事業効果、効率性）】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容 施策の	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
ア 地域コミュニティ活動の支援	102	公民館を中心にした地域コミュニティ活動への支援	地域コミュニティ活動の中心的な役割を果たしている自治会に対して支援することにより、地域コミュニティ活動を更に活性化していく。また、施設備品の充実に努める。	自治会に対して事務委託費、振興助成金を交付 地区集会施設改修10件の助成 小野、大道地域の各種活動用備品の整備（宝くじ助成事業）	80,098	B		自治会に対して事務委託費、振興助成金を交付 地区集会施設改修10件の助成 牟礼、勝間地域の各種活動用備品の整備（宝くじ助成事業）	83,185	B		地域コミュニティ活動の活性化につながる自治会館、施設備品の充実に努めることができた。  地域からの要望に沿いながら、改修等に対する支援の継続が必要である。	B	継続して実施する。	地域振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	4			効率性	4				
	103	公民館の運営方法についての調査・研究の推進	公民館は地域課題を解決する拠点として活用するため、今後「地域コミュニティ活動」のあり方を含めて、調査・研究する。 各地区公民館運営審議会の開催等	各地区公民館で運営審議会を実施した。	1,106	B		各地区公民館で運営審議会を開催した。	1,184	B		各公民館で運営審議会を開催した。  各公民館で運営審議会を開催し公民館の運営について審議を行っているが、地域課題解決の場として、どのように地域コミュニティ活動とかが関わっていくか検討が必要である。	B	継続して実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

内容の 施策の	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
イ 公民館・学校の連携による学校支援活動の推進	104	コミュニティ・スクールの推進等、地域ぐるみで学校を支える取組の推進	学校を支援する活動として、コミュニティ・スクール等を推進する。  「防府まると学校のつどい」(兼 全地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催等	「防府まると学校のつどい」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(5月、1月)第1回、第2回ともオンラインと集合のハイブリットで実施した。 地域連携教育プロジェクト会議(月2回程度)の実施 地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事等による学校運営協議会への参加及び助言、支援  ※No.117に再掲	3,002	B		「防府まると学校のつどい」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(5月、1月)第1回、第2回ともオンラインと集合のハイブリットで実施した。 地域連携教育プロジェクト会議(月2回程度)の実施 地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事等による学校運営協議会への参加及び助言、支援  ※No.117に再掲	3,002	B		児童生徒が参加した熟議もすべての学校で実施し、子どもから大人までの参画意識が高まってきている。 地域協育ネットにおいては、共通実践項目に基づく地域学校協働活動を実施するネットが増えた。  複雑な校区を抱える地域協育ネット協議会の質的な高まり。ボランティアなど地域学校協働活動への参加者の増加。	B	校長会、教頭会、校内研修等の機会を利用して、教職員を対象とした研修を行い、学校運営協議会と地域協育ネットの運営の仕方についての理解を深める。 市内各小中学校の好事例を紹介し、地域連携教育の取組の参考となるようにする。 地域学校協働活動推進員に、どのような方法や準備をすることで地域協育ネット協議会がより有意義なものになるか説明することを通して、協議会の質が高まるように努める。	学校教育課 生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	105	「指導者バンク」と「支援者バンク」の一体的な運用の促進(再掲)	市内すべての地域協育ネットが、「コミュニティ・スクール推進協議会」、「ほうふ幸せます人材バンク」を通して繋がるよう、一体的な運用を推進する。 プロジェクト会議等	校長会で「指導者バンク」と「支援者バンク」について、その仕組みと活用の仕方について説明した。	-	B		校長会で「指導者バンク」と「支援者バンク」について、その仕組みと活用の仕方について説明した。	-	B		校長や教頭へ「指導者バンク」「支援者バンク」の説明を行うことで、理解が深まり、登録を地域の方に促す学校があった。  学校教職員以外への周知の手段を確立させる必要がある。	B	市広報へ「指導者バンク」「支援者バンク」についての情報を掲載し、市民の学校支援ボランティアへの認知度を上げ、新規登録者を増やす。研修会や学校運営協議会で「防府モデル」を積極的に使い、「指導者バンク」「支援者バンク」について、学校運営協議会委員の認知度を高め、新規登録者と活動者を増やす。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	106	放課後子ども教室の開催等、放課後や週末の子どもの居場所づくりの推進	放課後や週末期に、安全・安心な子どもたちの活動拠点となる居場所を設け、地域住民の参画を得て、子どもたちの学習やスポーツ・文化活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを行う。 児童館の運営(児童館行事等)	市内15小学校区で放課後子ども教室を実施。 各教室、年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 市内放課後子ども教室への参加児童数(約5,000人)  ※No.27の再掲	4,814	B		市内15小学校区で放課後子ども教室を実施。 各教室、年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 市内放課後子ども教室への参加児童数(延べ約7,300人)  ※No.27の再掲	5,591	A		各教室の参加児童数、実施回数ともに前年を上回り、児童の居場所づくりが進んだ。また、留守家庭学級との交流も進み、のべ1,300人の児童が放課後子ども教室を利用した。 放課後子ども教室のスタッフの固定化、高年齢化が進んでいる。今までと同様の活動が保障できるか懸念している。	B	引続き情報交換会等により教室間の情報共有や連携に努めるとともに、後継者育成にも視野を広げてもらえるよう依頼する。 放課後子ども教室の様子を保護者や地域の方に周知し、地域の方の運営スタッフへの関心を高め、新規スタッフの増加を図る。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	4				
						事業効果	4			事業効果	4				
						効率性	3			効率性	3				
		家庭教育学級や就学期子育て講座等の公民館による講座の充実	公民館講座において、「教養向上」以外に「家庭教育・家庭生活」「市民意識・社会連帯意識」「指導者養成」等の現代的課題に取り組む。講座で学んだ学習成果を学校支援やまちづくりに生かすことができるように支援する。	就学期子育て講座(15校)を9月から11月にかけて実施。 公民館家庭教育学級(延べ1,853人) 高齢者教室(延べ2,172人) 女性学級(延べ2,459人) 教養講座(延べ24,282人)	-	B		就学期子育て講座(6校)を9月から11月にかけて実施。 公民館家庭教育学級(延べ2,049人) 高齢者教室(延べ2,444人) 女性学級(延べ2,706人) 教養講座(延べ24,433人)	-	B		各公民館で、概ね計画どおりに講座等を実施することができた。	B	多様なニーズに対応した講座や教室の充実を図る。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	108	地域連携担当者や公民館職員との合同研修の充実	学校の校務分掌上に、地域連携(生涯学習、コミュニティ・スクール)担当教員を位置づけ、研修会を実施して、学校と地域の連携を推進する。	「防府まると学校のつどい」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(5月、1月)第1回、第2回ともにオンラインと集合のハイブリットで実施 地域連携教育担当者合同研修会(8月) 地域連携教育担当者研修会(2月)	3,002	B		「防府まると学校のつどい」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(5月、1月)第1回、第2回ともにオンラインと集合のハイブリットで実施 地域連携教育担当者合同研修会(8月) 地域連携教育担当者研修会(2月)	3,002	B		研修会で、地域連携カリキュラムについてその必要性と活用の仕方について理解を深めた。すべての小中学校で見直しが進められた。各学校の学校・地域連携カリキュラムの見直し活用を図るため、中学校区で協議することができた。 地域学校協働活動推進員や地域連携教育担当以外の教職員の地域連携教育に対する個人の意識の差が大きい。社会教育指導員の貢献が大きく、人的時間的予算的拡充が必要である。	B	引続き「防府まると学校のつどい」と、地域連携教育担当者会議を効果的にを行い、地域連携教育担当者教職員と管理職、地域学校協働活動推進員の意識を高め、地域連携教育についての理解も深めていく。 研修会後アンケートを確実に実施し、現場のニーズを把握、効果的な研修内容となるよう工夫する。	学校教育課 生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				



基本目標	3 学びを通じてつながる地域づくり
施策	(2) 地域の協働を進めるための仕組みづくり
施策の展開	① 家庭教育力の向上
施策の方針	子どもの発達段階に対応したさまざまな情報を提供するとともに、親子のふれあいや父親の子育て参加を促進する。 地域の身近なサポーター役として、子育てに関する知識や経験をもつボランティアを中心に、子育て家庭を支援するとともに、育児に追われ孤立しがちな保護者が地域で気軽に相談できる体制の強化を図る。

事務事業の進捗状況

施策の内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
ア 地 域 ぐ る み の 家 庭 教 育 支 援 の 推 進	109	家庭教育アドバイザーの養成と活用	県が主催する家庭教育アドバイザー養成講座への参加を促し、その修了者を活用することにより、家庭教育並びに子育て支援の充実を図る。	家庭教育アドバイザー養成講座今年度修了者が家庭教育支援チームを立ち上げた。 家庭教育アドバイザー養成講座を今年度修了者した3名が家庭教育支援チームの一員として子育て学習会等において活動	-	B		家庭教育アドバイザー養成講座修了者が家庭教育支援チームの一員として乳幼児子育て広場や子育て学習会等において活動した。 家庭教育関係者を対象とした連絡会議を実施(養成講座修了者からは7人が参加)	-	B		子育て学習会、赤ちゃんとのふれあい体験、子育て広場等、活躍の場が増えた。	B	地域で家庭教育支援に係る活動を行っている方に案内をするとともに、放課後子ども教室関係者、PTA、子ども会関係者など、多くの方に情報発信をしていく。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	4			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	110	家庭教育に関する相談体制の充実	家庭教育力向上のため、各公民館、文化センター、学校等において、子育てや家庭教育講座、親子や地域でのふれあい活動を開催し、交流の場の確保をする。 公民館家庭教育学級等	公民館家庭教育学級16公民館等で127回実施(参加者(延べ1853人)	5,994	B		公民館家庭教育学級16公民館等で137回実施(参加者(延べ2,049人)	5,975	B		各公民館で、概ね計画どおりに講座等を実施することができた。	B	多様なニーズに対応した講座や教室の充実を図る。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	111	就学期子育て講座や思春期子育て講座等、家庭教育学習の推進	学校と公民館を中心に地域で家庭教育支援を図るため、就学期を迎えた保護者に対し、子どもに対するこれからの接し方や学校生活などについて学ぶ機会を提供する。 また、中学校ではPTA研修会等の機会を利用して思春期子育てについて学習会を開催する。	就学期子育て講座(15校)を9月から11月にかけて、学校・公民館・生涯学習課間で連携して実施  思春期子育て講座(11校)を7～12月にかけて実施	110	B		就学期子育て講座(6校)を9月から11月にかけて実施。  思春期子育て講座(9校)を6～12月にかけて実施	90	B		就学期子育て講座については、公民館社会教育指導員が企画し、講演会、座談会を行うなど、参加者や地域のニーズに即した開催となるよう工夫した。また、家庭教育支援チームや県の事業と協働して行う工夫をした。  民生児童委員や子育て主管課、自治会等との地域と保護者をつなぐための連携が必要。	B	民生児童委員や自治会、母子推進委員や母親クラブと連携するため、関係所管課と情報交換を行う。また、関係所管課が行っている市全体の会議等で、連携を呼びかけ合う場を設定する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	4			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	112	「家庭の日」親子ふれあいイベントの開催等、「家庭の日」運動の積極的な推進	青少年を健全に育てるための最も重要な基盤である家庭を見直すために、毎月第3日曜日を「家庭の日」として、防府市青少年育成市民会議を中心として「家庭の日」運動の啓発活動の拡大を図る。 また、官公庁が行うイベントにおいても、「家庭の日」を念頭においた、スケジュール調整を行う。	山口短期大学及び周南公立大学との協働により「家庭の日」親子ふれあいイベントをルルス文化センターで開催した。(6月、7月、9月、10月、11月、12月、1月、2月)  防府市青少年育成市民会議の取組として、啓発用品(ポスター・チラシ・のぼり旗)を作製し、配付した。  市広報や広報紙「はばたき」、まなぼうやだよりに記事を掲載した。	516	B		山口短期大学との協働により「家庭の日」親子ふれあいイベントをルルス文化センター(10/20のみ、キリンレモンスタジアム軽運動室で同時開催)で開催した。(6月、7月、10月、11月、1月、2月)  防府市青少年育成市民会議の取組として、啓発用品(ポスター・チラシ・のぼり旗)を作製し、配付した。  市広報や広報紙「はばたき」、まなぼうやだよりに記事を掲載した。	534	B		概ね計画どおりに事業を実施できた。 「家庭の日」親子ふれあいイベントは、参加者からも好評で、参加者数は増加傾向にある。  学校、幼稚園、保育園などへの情報発信など、更なる啓発活動に努める必要がある。	B	学校、幼稚園、保育園などへの周知を行い、継続して啓発活動を実施する。 イベントの情報提供を行い、子育て家庭への認知度を高める。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	4			効率性	3				

【評価】

評価項目の合計点数をもとに記入

A～Dで評価

【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】

それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】

A. 拡充を図る

B. 現行のまま推進する

C. 事業の改善が必要

D. 計画の見直しが必要



施策内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)	評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課	
						課題									
イ 子育て支援体制の整備・充実	113	地域の子育てでサークルの支援 子育てを支援するボランティアの活用	母子保健推進員が地域の身近なサポーター役となり、乳幼児を持つ保護者等が安心して子育てできるように、訪問活動の実施や各地域での子育てサークル等の母子が集える場を提供する。 母子保健推進員による訪問活動、各地区子育てサークル、わいわいHOFUっ子の集い等	母子保健推進員による訪問活動(3,397件) 子育てサークル(14地区、49回、延494組) わいわいHOFUっ子の集い(93組、子ども100人)	1,079	B		母子保健推進員による訪問活動(2,909件) 子育てサークル(14地区、49回、延465組) わいわいHOFUっ子の集い(92組、子ども100人)	1,512	B		母子保健推進員による家庭訪問や子育てサークル活動は子育て中の親子の孤立を防ぎ、地域とのつながりをもつ重要な機会となっている。わいわいHOFUっ子の集いは、多くの参加者に楽しんでもらうことができた。 子育て中の保護者が、母子保健推進員を通じて、地域の相談先(こども家庭センター等)を知り、困った時には気軽に相談できるようになる取組が必要である。	B	地区の子育てでサークル開催時に、子育てに関する相談先の紹介方法の検討、または、相談を聞いた母子保健推進員からの連絡や報告の大切さを研修等により伝える等の取組を実施する。	こども相談支援課
						到達度	4			到達度	4				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	114	企業等への「家庭の日」運動に関する広報・啓発	「家庭の日」運動に関する啓発活動を行い、子育てに関する環境づくりを促進するよう努める。	「家庭の日」運動の啓発活動 ・市広報への掲載(毎月1日号) ・チラシやポスター、のぼり旗の掲示・設置	-	B		「家庭の日」運動の啓発活動 ・市広報への掲載(毎月1日号) ・チラシやポスター、のぼり旗の掲示・設置	-	B		防府市青少年育成市民会議が発行するチラシやポスター、のぼり旗を市の社会教育施設に設置・掲示することで、関係企業や住民への広報に繋げることができた。 関係機関と連携し、啓発活動に努める必要がある。	B	さらなる周知に繋がるように、継続して啓発活動を実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	115	幼稚園・保育所(園)や地域子育て支援拠点等での子育て相談の実施	地域の子育て支援機能の充実を図るため、子育てに関する相談を実施する。	保育所・幼保連携型認定こども園 22施設 地域子育て支援拠点施設 8施設	-	B		保育所・幼保連携型認定こども園 22施設 地域子育て支援拠点施設 8施設	-	B		保護者の育児不安の解消の一助になっている。	B	地域子育て支援拠点施設が子育てに関する相談の場となるよう引き続き実施する。	子育て推進課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
116	5歳児(年中児)発達相談会の開催等、子どもの発育や発達の相談・支援の充実	0歳から18歳未満の子どもの養育に関する悩み等児童福祉に関する相談に応じる。 年中児を対象に幼稚園、保育園を通じて問診票を配布し、希望者に発達相談会を実施し、育児支援、生活支援、就学支援を行う。(学校教育課と共催)	0歳から18歳未満の養育に関する悩み等児童福祉に関する相談に応じている。 相談件数※458人	-	B		0歳から18歳未満の養育に関する悩み等児童福祉に関する相談に応じている。 相談件数 405人	-	B		保護者の育児不安の解消の一助になっている。また、関係機関と連携し、支援することができている。	B	児童福祉に関する相談に応じ、育児不安の解消や解決方法を模索するとともに、関係課、他市町との情報連携を引き続き実施する。	こども相談支援課	
					到達度	3			到達度	3					
					事業効果	3			事業効果	3					
					効率性	3			効率性	3					
		5歳児(年中児)発達相談会:12回(参加者74人)		5歳児(年中児)発達相談会:11回(参加者 70人)	296	B			250	B		子育てやお子さんの発達に関する相談の場となっている。 臨床心理士等相談員の確保が難しい現状がある。また、療育機関が定員一杯であるなど、相談会を受けた後のフォロー体制が十分でないところは課題。	B	関係機関と連携を図りながら、相談会を受けた後のフォロー体制や相談会の実施方法について検討を行う。	こども相談支援課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

基本目標	3 学びを通じてつながる地域づくり
施策	(2) 地域の協働を進めるための仕組みづくり
施策の展開	② 学校・家庭・地域の協働の推進
施策の方針	コミュニティ・スクール、学校支援地域本部事業、放課後子ども教室事業など、保護者や地域住民が学校支援活動を通じて築く豊かな人間関係による、地域の教育力の向上を目指す。 また、保護者と地域住民とのつながりを深めるため、公民館などで地域住民と協働して家庭教育に関する講座を開催するなど、学習機会の提供に努める。

事務事業の進捗状況

施策の内容	連番	主な取組	事業説明	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		6年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (6年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
												課題			
ア  学校・家庭・地域が協働した教育支援活動の推進	117	コミュニティ・スクールの推進並びに地域ぐるみで学校(部活動等)を支える取組の推進(再掲)	学校を支援する活動として、コミュニティ・スクール等を推進する。  「防府まると学校のつどい」(兼 全地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(5月、1月) 第1回、第2回ともオンラインと集合のハイブリットで実施した。 地域連携教育プロジェクト会議(月2回程度)の実施 地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事等による学校運営協議会への参加及び助言、支援	「防府まると学校のつどい」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(5月、1月) 第1回、第2回ともオンラインと集合のハイブリットで実施した。 地域連携教育プロジェクト会議(月2回程度)の実施 地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事等による学校運営協議会への参加及び助言、支援	3,002	B		「防府まると学校のつどい」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(5月、1月) 第1回、第2回ともオンラインと集合のハイブリットで実施した。 地域連携教育プロジェクト会議(月2回程度)の実施 地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事等による学校運営協議会への参加及び助言、支援	3,002	B		児童生徒が参加した熟議もすべての学校で実施し、子どもから大人までの参画意識が高まってきている。 地域協育ネットにおいては、共通実践項目に基づく地域学校協働活動を実施するネットが増えた。  複雑な校区を抱える地域協育ネット協議会の質的な高まり。ボランティアなど地域学校協働活動への参加者の増加。	B	校長会、教頭会、校内研修等の機会を利用して、教職員を対象とした研修を行い、学校運営協議会と地域協育ネットの運営の仕方についての理解を深める。 市内各小中学校の好事例を紹介し、地域連携教育の取組の参考となるようにする。 地域学校協働活動推進員に、どのような方法や準備をすることで地域協育ネット協議会がより有意義なものになるか説明し、することを通して、協議会の質が高まるように努める。	学校教育課 生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	118	放課後子ども教室の開催等、放課後や週末の子どもの居場所づくりの推進(再掲)	放課後や週末期に、安全・安心な子どもたちの活動拠点となる居場所を設け、地域住民の参画を得て、子どもたちの学習やスポーツ・文化活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを行う。 児童館の運営(児童館行事等)	市内15小学校区で放課後子ども教室を実施。 各教室、年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 市内放課後子ども教室への参加児童数(約5,000人)  ※No.27、106の再掲	4,814	B		市内15小学校区で放課後子ども教室を実施。 各教室、年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 市内放課後子ども教室への参加児童数(延べ約7,300人)  ※No.27の再掲	5,591	A		各教室の参加児童数、実施回数ともに前年を上回り、児童の居場所づくりが進んだ。また、留守家庭学級との交流も進み、のべ1,300人の児童が放課後子ども教室を利用した。 放課後子ども教室のスタッフの固定化、高年齢化が進んでいる。今までと同様の活動が保障できるか懸念している。	B	引続き情報交換会等により教室間の情報共有や連携に努めるとともに、後継者育成にも視野を広げてもらえるよう依頼する。放課後子ども教室の様子を保護者や地域の方に周知し、地域の方の運営スタッフへの関心を高め、新規スタッフの増加を図る。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	4				
						事業効果	4			事業効果	4				
						効率性	3			効率性	3				
			児童館の運営 ・児童館行事の実施(各館4回程度)  ※No.106の再掲	児童館の運営 ・児童館行事の実施(各館6回程度)  ※No.106の再掲	3,093	B		児童館の運営 ・児童館行事の実施(各館6回程度)  ※No.106の再掲	3,515	B		アフターコロナに対応し、趣向を凝らした児童館行事を各館で実施した。開催回数も昨年度より2回増やした。  数年間、新型コロナウイルス感染拡大により児童館行事を中止、又は縮小して実施したため、児童館及び児童館行事の認知度が低下している。	B	今後も児童館行事の開催回数を増やし、児童館が立地する小学校を通じて配布する「じどうかんだより」等で多くの児童の参加を促していく。	福祉総務課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	119	社会教育指導員との情報交換等、学校と地域をつなぐコーディネーターの活用	学校と地域との連携を推進するために、調整役としてのコーディネーターの役割は大きく、コーディネーターの活用を図る。	「防府まると学校のつどい」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(5月、1月) 第1回、第2回ともにオンラインと集合のハイブリットで実施 地域連携教育担当者合同研修会(8月) 地域連携教育担当者研修会(2月)	-	B		「防府まると学校のつどい」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(5月、1月) 第1回、第2回ともにオンラインと集合のハイブリットで実施 地域連携教育担当者合同研修会(8月) 地域連携教育担当者研修会(2月)	-	B		各研修を通して地域学校協働活動推進員の役割について理解を深め、学校からの求めに応じて、地域と学校をつなぐ役割を担った。  地域学校協働活動推進員の活動への公民館職員の理解や意識を高める必要がある。	B	公民館出張所会議を活用して、地域学校協働活動推進員の役割への理解を深め、公民館全体で地域と学校をつなぐ体制を進めていく。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	120	家庭教育学級等、保護者や地域住民との協働による講座の開催	公民館学級(家庭教育学級・女性学級等)において、保護者と地域住民とのつながりを深めるよう努める。	公民館活動 ・家庭教育学級 ・女性学級 ・公民館まつり	5,994	B		公民館活動 ・家庭教育学級 ・女性学級 ・公民館まつり	5,975	B		概ね計画どおりに公民館活動を行うことができた。  地域によっては、家庭教育学級等の開催が困難場合がある。	B	地域のニーズに応じた講座等を引き続き開催していく。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

### 第3次防府市生涯学習推進計画「目標指標」

基本目標1 いつでもどこでも学べる環境づくり						
指標項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和7年度 実績	目標 (令和7年度)	担当課
「聞いて得するふるさと講座（出前講座）」の利用件数（年間）	109件	153件	177件		130件	生涯学習課
公民館利用者数（年間：延べ数）	191,845人	226,262	209,714		220,000人	生涯学習課
防府図書館館外個人貸出者数（年間）	138,034人	135,478人	135,129		147,000人	教育総務課
青少年科学館（ソラル）入館者数（年間）	32,530人	48,201人	87,290		80,000人	生涯学習課
文化財郷土資料館入館者数（年間）	2,425人	1,613人	1,449		3,700人	文化振興課

基本目標2 ひとりひとりがきらめく人づくり						
指標項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和7年度 実績	目標 (令和7年度)	担当課
『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』登録者の派遣回数（年間）	194件	225件	215件		200件	生涯学習課
「学ぼうやギャラリー」の設置箇所数	15か所	15か所	15か所		15か所	生涯学習課
市民活動支援センターの登録団体数（年間）	205件	203件	206件		215件	地域振興課

基本目標3 学びを通じてつながる地域づくり						
指標項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和7年度 実績	目標 (令和7年度)	担当課
放課後子ども教室開設箇所数	13か所	15か所	15か所		15か所	生涯学習課
放課後子ども教室に係るボランティア数（延べ数）	1,946人	2,255人	2,087人		3,100人	生涯学習課